

佐賀大学美術館
事業報告及び
自己点検・評価報告書

平成27年度

平成28年12月

佐賀大学
美術館

目 次

I	佐賀大学美術館の現況及び特徴	
	1	設立趣旨と活動目的 本紙 p. 1
	2	沿 革 p. 2
	3	施設概要 p. 3
	4	組 織 p. 4
	5	平成27年度の活動	
	(1)	主な活動 p. 5
	(2)	主催事業展示記録 p. 6
	(3)	企画申請事業展示記録 p. 22
	(4)	プロムナード利用記録 p. 33
	(5)	実習・研修 p. 34
	(6)	刊 行 物 p. 36
	(7)	広 報 p. 37
	(8)	見学団体・入館者数 p. 39
	(9)	作品管理・保管 p. 42
	(10)	寄附状況 p. 45
II	自己点検・評価	p. 46
	1	平成27年度の主な活動に関する自己点検・評価	
	2	今後の課題等	

I 佐賀大学美術館の現況及び特徴

1 設立趣旨と活動目的

平成 25 年 10 月、旧佐賀大学と佐賀医科大学の統合 10 周年記念事業の一つとして開館。美術館と併せて整備された正門エリアは「地域に開かれた大学」という佐賀大学の理念を象徴し、門扉のない低い正門、そして、水平線が強調され、ガラス張りのファサード（正面）をもつ美術館から成る。そして、佐賀大学美術館は、より多くの人に総合大学である佐賀大学の魅力を知っていただくための情報発信の場として建設された。

平成 15 年の国立大学法人法の制定以来、国立大学はそれまで以上にそれぞれの特徴を打ち出し、存在意義を明確にしなければならなくなった。佐賀大学の特色や強みは何かと言われたとき、60 年以上の歴史を誇り、多くの優れた美術・工芸分野の教員、作家、デザイナーなどを輩出してきた美術・工芸教室の実績は地域に確たる歴史を刻んでいる。このような歴史と実績を背景とし、新生佐賀大学の 10 周年を記念する事業の一つとして、佐賀大学美術館建設はスタートした。総合大学であるにもかかわらず、博物館や資料館ではなく、美術館が建てられた理由もそこにある。

一方、佐賀大学は「COC（センター・オブ・コミュニティ）」を大学の理念として掲げている。すなわち、佐賀大学の大学としての大きな存在意義とは、地域貢献にある。佐賀大学は、佐賀大学美術館を通して地域の文化芸術の促進に貢献するとともに、佐賀大学美術館が地域の人々のコミュニケーションの場となる使命を有するのは、そのような理由があるからである。

佐賀大学美術館は、佐賀大学が所有する資料の公開や、特別教科（美術・工芸）教員養成課程以来の美術作品を収集・保管・展示するとともに、美術の新しい活動や表現を地域の人々とともに作り上げていく。また、佐賀大学美術館は、総合大学が生み出すさまざまな研究成果を周知・公開していく。

博物館法に定められた美術館の機能である 1) 調査・研究 2) 資料の収集・保存・公開 3) 教育普及の柱を堅持しつつ、なおかつ佐賀大学美術館は、これらの機能に加えて大学の研究教育機関としての役割、すなわち、全学的な教育研究成果の発表、美術教育研究成果のアーカイブ化などを果たしていく。このような「社会教育の場」であるとともに、「大学の教育研究機関」でもあるという位置付けこそが佐賀大学美術館の特徴であり、学生の教育のために積極的にその場を提供し、また、美術館自体も博物館活動を通じて学生への教育を担う。

(参考)

佐賀大学美術館設置までの主な経緯（役員会での決定等）

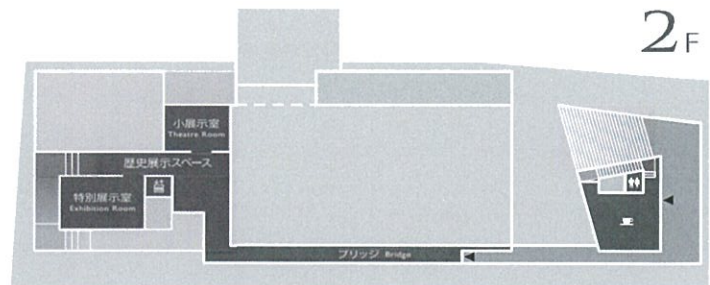
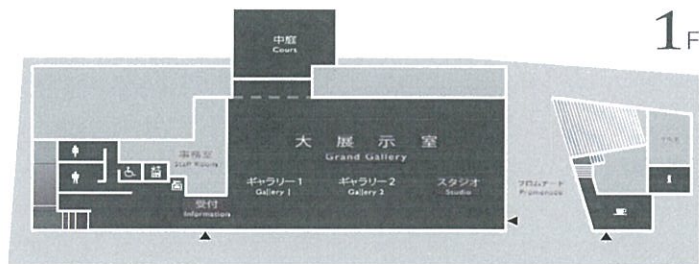
- 平成 23 年 6 月 8 日 美術館設置諮問委員会からの答申を報告し、美術館・正門整備委員会の設置を審議・了承
- 平成 24 年 1 月 25 日 平成 23 年度補正予算（第 2 次）案で基本設計費の審議・了承
- 平成 24 年 2 月 22 日 基本設計のイメージ説明、募金趣意書等を審議・了承
- 平成 24 年 6 月 20 日 平成 24 年度補正予算（第 1 次）案で実施設計費、建設費の審議・了承
- 平成 25 年 6 月 26 日 佐賀大学美術館規則等の制定

2 沿 革

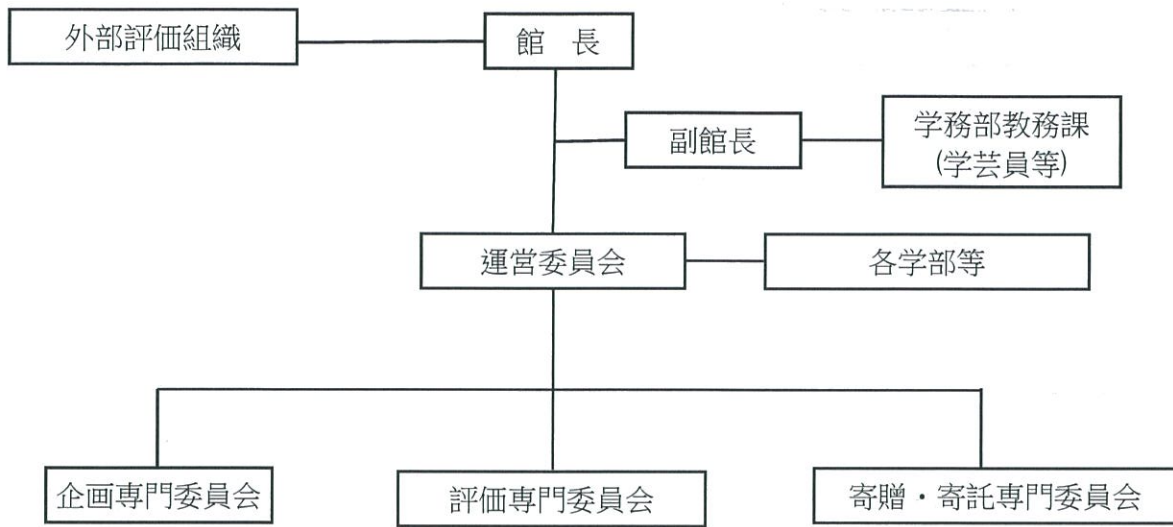
- 平成23年 1月 4日 学長年頭挨拶で美術館設置計画を発表
- 平成23年 6月 8日 役員会にて美術館設置諮問委員会からの答申書を報告
美術館の設置を審議・了承
- 平成23年12月20日 美術館基本設計建設コンサルタント選定委員会
- 平成24年 2月22日 役員会にて基本設計のイメージを説明。募金趣意書を了承
- 平成24年 5月14日 基本設計納入
- 平成24年12月29日 美術館実施設計終了
- 平成25年 2月14日 新営工事起工式
- 平成25年 6月26日 美術館規則、美術館運営委員会規程制定
- 平成25年 8月30日 美術館建設工事竣工
- 平成25年 9月28日 佐賀大学統合10周年記念式典・佐賀大学美術館開館記念式典
- 平成25年10月 2日 一般公開開始
- 平成26年10月24日 入館者5万人達成
- 平成27年 1月22日 第18回佐賀市景観賞表彰式
- 平成28年 2月19日 入館者10万人達成

3 施設概要

名称	佐賀大学美術館（通称 SUAM）			
所在地	佐賀市本庄町1番地			
基本設計	佐賀大学			
実施設計	（株）梓設計九州支社（協力：（株）ワークヴィジョンズ）			
監理	佐賀大学環境施設部			
施工	建設・・・金子建設（株） 電気・・・（株）佐電工 機械・・・（株）九電工			
構造	鉄骨造・地上2階建			
延床面積	1,502㎡			
展示面積	462㎡			
	ギャラリー1	106㎡	ギャラリー2	106㎡
	スタジオ	111㎡	特別展示室	48㎡
	小展示室	34㎡	歴史展示スペース	57㎡
その他 設備 併設	プロムナード 中庭 ブリッジ トイレ 多目的トイレ ロッカー カフェ			
開館時間	10時00分～17時00分			
休館日	毎週月曜日（祝日の場合は翌日、年末年始、夏季休業期間）			



4 組織



〔職員〕

館長	宮崎 耕治 (~平成27年9月30日)
	後藤 昌昭 (平成27年10月1日~)
副館長	吉住 磨子 (~平成27年9月30日)
	田中 嘉生 (平成27年10月1日~)
主任(学芸員)	佐々木 奈美子
事務員(再雇用)	西村 彰
事務補佐員(学芸員)	大坪 由季
事務補佐員	井手 麻奈未
事務補佐員(学芸員)	鬼塚 美津子
事務補佐員(学芸員)	藤 森 梨衣

〔運営委員会委員〕

委員長(館長)	理事	宮崎 耕治 (~平成27年9月30日)
	理事	後藤 昌昭 (平成27年10月1日~)
副委員長(副館長)	教授	吉住 磨子 (~平成27年9月30日)
	教授	田中 嘉生 (平成27年10月1日~)
委員	教授	重藤 輝行 (~平成27年9月30日)
委員	准教授	鬼嶋 淳 (平成27年10月1日~)
委員	教授	中村 博和 (~平成27年9月30日)
委員	教授	平地 一郎 (平成27年10月1日~)
委員	准教授	永松 美雪
委員	准教授	後藤 隆太郎
委員	教授	有馬 進 (~平成27年9月30日)
委員	教授	白武 義治 (平成27年10月1日~)
委員	学務部長	下川 洋司
委員	佐賀大学 同窓会長	金丸 安隆
委員	教授	田中 嘉生 (~平成27年9月30日)
委員	教授	荒木 博申 (平成27年10月1日~)
委員	教授	田中 右紀

平成28年3月31日現在

5 平成27年度の活動

(1) 主な活動

- 平成27年 3月20日「染めの系譜—*Jo-Ogawa-Tanaka* 染色教室三人展」(～5.10)
- 3月20日「バンカラ時代の佐賀大学—昔なつかしキャンパスライフ」
(～5.31)
- 6月 5日「新収蔵品展—受け継ぐ絵画」(～6.28)
- 7月17日「知られざるメディカルイラストレーションの世界
—描かれた からだの神秘」(～8.23)
- 7月17日「村岡平蔵—瞬間の美」(～11.15)
- 8月28日「鍋島緞通—Men/綿の織りなすハーモニー」(～9.27)
- 11月 1日 公開講座「アートと女性の関係」第1回
(第2回 11月14日/第3回 11月21日)
- 11月25日「市場直次郎コレクションより
花鳥風月に遊ぶ—近世の絵師と歌人」(～3.13)
- 12月 4日「音楽のカーリコーダーとヴァイオリンのミニ・コンサート」
- 平成28年 2月19日 入館者10万人達成
- 3月21日「芸術地域デザイン学部開設記念展
—芸術で地域を拓く 芸術で世界を拓く」(～5.8)
- 3月21日「久富邦夫<東京>—太宰と出会った修業時代」(～7.10)

(2) 主催事業展示記録

展覧会名	染めの系譜—Jo-Ogawa-Tanaka 染色教室三人展
展覧会概要	特設美術科の時代から現在までの染色教室の歴代教員、城秀男、小川泰彦、田中嘉生の屏風を、それぞれの作風の変遷がわかるように紹介。ひな壇を用いた空間を生かす展示の他、各作家の技法などをパネルで解説した。
会期	平成27(2015)年3月20日(金)～5月10日(日)
開館日数	46日間
会場	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
資料提供・協力	佐賀大学文化教育学部 美術・工芸教室
展示構成	染色 25点 計25点
入館者数	3,945名
広報物	チラシ、ポスター
配布資料	チラシ、目録
関連事業	<p>ギャラリートーク</p> <p>日 時：4月14日(火)、4月26日(日)、5月2日(土) いずれも14：00～</p> <p>解 説：1回目 小川泰彦氏、田中嘉生教授(文化教育学部)</p> <p>2回目 担当学芸員 3回目 田中嘉生教授(同上)</p>
展示写真	

出品リスト

番号	作家名	作品名	数量	制作年	出品歴	所蔵
1	城 秀男	樹 A	1	1959(昭和34)	第2回日展	個人蔵
2	城 秀男	蓮	1	1967(昭和42)	第53回光風会展	個人蔵
3	城 秀男	豊	1	1967(昭和42)	第10回日展 特選	個人蔵
4	城 秀男	妖艶の正体	1	1971(昭和46)	第3回日展	個人蔵
5	城 秀男	遙光	1	1973(昭和48)	第5回日展	個人蔵
6	城 秀男	妖異な円	1	1974(昭和49)	第6回日展 審査員出品	個人蔵
7	城 秀男	二つの構成	1	1976(昭和51)	第62回光風会 杉浦非水賞	個人蔵
8	城 秀男	樹林 B	1	1978(昭和53)	第10回日展	個人蔵
9	城 秀男	樹魂繁栄	1	1988(昭和63)	第20回日展	個人蔵
10	小川 泰彦	深蒼	1	1967(昭和42)	第10回日展	佐賀県立美術館
11	小川 泰彦	展望	1	1974(昭和49)	第6回日展	個人蔵
12	小川 泰彦	不知火の有明	1	1978(昭和53)	第10回日展	個人蔵
13	小川 泰彦	明け染めし	1	1988(昭和63)	第20回日展	佐賀県立美術館
14	小川 泰彦	さざなみ	1	1992(平成4)頃か		個人蔵
15	小川 泰彦	展望	1	1996(平成8)	第28回日展	個人蔵
16	小川 泰彦	島一つ	1	2001(平成13)	第84回佐賀県美術協会展(顧問)	個人蔵
17	田中 嘉生	解ける	1	1982(昭和57)	第14回日展	個人蔵
18	田中 嘉生	夏の風	1	1993(平成5)	第25回日展	個人蔵
19	田中 嘉生	ある日の音	1	1999(平成11)	第31回日展	個人蔵
20	田中 嘉生	ある日の空	1	1995(平成7)	第17回日本新工芸展 会員佳作賞	個人蔵
21	田中 嘉生	ある日の線 -コソデー	1	2005(平成17)	第27回 日本新工芸展 会員佳作賞	個人蔵
22	田中 嘉生	ある日	1	2006(平成18)	第28回 日本新工芸展	個人蔵
23	田中 嘉生	ある日	1	2011(平成23)	第32回九州新工芸展	個人蔵
24	田中 嘉生	卯月の頃	1	2013(平成25)	第45回日展	個人蔵
25	田中 嘉生	ある日のくわがた	2	1996(平成8)	第17回九州新工芸展	個人蔵

展覧会名	バンカラ時代の佐賀大学—昔なつかしキャンパスライフ	
展覧会概要	佐賀大学の前身となった4つの旧制学校ゆかりの資料により、大学の歴史や成り立ちを紹介した展覧会。佐賀大学同窓会が保管している旧制佐賀高校の校章、旗、古い実験器具などを展示した。	
会期	平成27(2015)年3月20日(金)～5月31日(日)	
開館日数	63日間	
会場	特別展示室	
資料提供・協力	菱の実会館(佐賀大学内)、臼杵市教育委員会	
展示構成	旧制佐賀高等学校関連資料（菱の実会館所在）31点 佐賀女子師範学校、佐賀師範学校、卒業アルバム 3点 パネル展示3点	計38点
入館者数	2,537名	
広報物	チラシ、ポスター	
配布資料	チラシ、目録	
展示写真		

出品リスト

番号	展示資料 内約	数量	年	サイズ(cm)	素材	制作	所蔵先
1	旧制佐賀高校の学帽	1		29×25×13	布	ユタカ製帽所(佐賀市唐人町)	佐賀大学菱の実会館資料
2	同 マント	1		肩幅部分40 着丈110	布		佐賀大学菱の実会館資料
3	同 下駄	1		10×23×8	木、布		佐賀大学菱の実会館資料
4	遥かなり十五畷(小像)	1	昭和58年	像:19×10×46 台座:22×16×7	象:ブロンズか 台座:木、大理石		佐賀大学菱の実会館資料
5	学業成績原簿	1	昭和4年	41.7×2013	紙、インク、鉛筆か	旧制佐賀高校	佐賀大学菱の実会館資料
6	不知火寮学習机	1		50×70×36.5	木		佐賀大学菱の実会館資料
7	佐賀高校 校章	1		79×8×85	木製に漆塗り・金箔仕上げ		佐賀大学菱の実会館資料
8	佐賀高校 校旗	1		柄:198 布:90×110	布		佐賀大学菱の実会館資料
9	e/m測定用ブラウン管	1	大正14年	全長75 底面直径11	ガラス		佐賀大学菱の実会館資料
10	タイプライター	1		37×41×23	鉄	Royal(アメリカ)	佐賀大学菱の実会館資料
11	化学天秤	1		22×42.5×49	木、ガラス、分銅	守谷定吉造(東京)	佐賀大学菱の実会館資料
12、13	福田教授愛用の顕微鏡	2		12×10.5×27		E.Leitz Wetzlar(ドイツ)	佐賀大学菱の実会館資料
14	福田教授愛用の顕微鏡	1		12×17×30		E.Leitz Wetzlar(ドイツ)	佐賀大学菱の実会館資料
15、16	古写真	2	大正13年				佐賀大学菱の実会館資料
17	理三乙物理実験報告	1	昭和12年	16.5×23.1×0.7		旧制佐賀高校	佐賀大学菱の実会館資料
18	物理実験測定法 教科書	1	昭和12年	15.5×22.8×0.7			佐賀大学菱の実会館資料
19	剣道部誌「劔友」第二号	1	昭和2年	21.2×15×0.7			佐賀大学菱の実会館資料
20	剣道部誌「劔友」福田先生米寿記念特集号	1	昭和53年	21.2×15×0.7			佐賀大学菱の実会館資料
21	剣道部誌「劔友」福田先生追悼特集号	1	昭和55年	21.2×15×0.7			佐賀大学菱の実会館資料
22	柔道部誌	1	昭和11年	22×1.5×0.7		鶴鳴館活版所(佐賀市多布施町)	佐賀大学菱の実会館資料
23	弓道部誌「白光」(復刊第一号)	1	昭和57年	21×1.5×0.7		佐賀高 弓友会本部	佐賀大学菱の実会館資料
24、25	水泳部誌	2	昭和36年	18.4×13.3×0.8		佐高水泳部史刊行会 福博総合印刷	佐賀大学菱の実会館資料
26	文芸部誌「創作集」	1	昭和6年	23×16.3×1.5		第二晴雲堂活版部	佐賀大学菱の実会館資料
27	不知火寮誌「不知火」	1	昭和10年	22×15.2×0.6			佐賀大学菱の実会館資料
28	旧制佐賀高校卒業アルバム	1	大正12年	37×27×3.5			佐賀大学菱の実会館資料
29	旧制佐賀高校卒業アルバム	1	大正13年	32×23×4			佐賀大学菱の実会館資料
30	旧制佐賀高校卒業アルバム	1	大正15年	26×18×1.8			佐賀大学菱の実会館資料
31	旧制佐賀高校卒業アルバム	1	昭和16年	33×24.5×8			佐賀大学菱の実会館資料
32	佐賀女子師範学校卒業アルバム	1	昭和8年				佐賀大学美術館
33	佐賀師範学校卒業アルバム	1	昭和12年				佐賀大学美術館
34	佐賀師範学校卒業アルバム	1	昭和16年				佐賀大学美術館
35	佐賀大学 航空写真(本庄)20130909	1	平成25年9月				佐賀大学美術館
36	臼杵市教育委員会 旧制佐賀高校関連写真 航空写真/20-06	1					臼杵市教育委員会 (旧藩主稲葉家関係史料)
37	臼杵市教育委員会 旧制佐賀高校関連写真 十五畷橋/20-1-21	1					臼杵市教育委員会 (旧藩主稲葉家関係史料)
38	臼杵市教育委員会 旧制佐賀高校関連写真 十五畷橋/20-1-22	1					臼杵市教育委員会 (旧藩主稲葉家関係史料)

展覧会名	新収蔵品展—受け継ぐ絵画		
展覧会概要	平成26年度に寄贈を受けた絵画をまとめて紹介した当館初の収蔵品展。本学で洋画、日本画を最初に教えた教員の作品や資料、旧佐賀商工会館から一括寄贈された県ゆかりの作家による絵画や資料を全館に展示した。		
会期	平成27(2015)年6月5日(金)~6月28日(日)		
開館日数	21日間		
会場	ギャラリー1、ギャラリー2、特別展示室、小展示室		
展示構成	石本秀雄(洋画)、藤田隆治(日本画)絵画および関連資料 10点	旧財団法人佐賀商工会館 ご寄贈の絵画 23点	計33点
入館者数	1,743名		
広報物	チラシ、ポスター		
配布資料	チラシ、目録		
関連事業	オープニング ギャラリートーク 参考映像上映		
内容	担当学芸員によるギャラリートーク 日時：6月13日(土)、20(土)、27(土) いずれも14:00~ 鑑賞会「知られざるメダリスト~画家・藤田隆治の生涯」 日時：6月16日(火) 15:00~16:30 対象：日本画を学ぶ学生		
展示写真			
			

出品リスト

第1章 石本秀雄							
No.	作品名	作者	制作年	寸法	素材	寄贈者	備考
1	トレド	石本 秀雄	昭和41(1966)年	額(F60)130.1×97.0	油彩・カンヴァス	岡田章子 氏	第32回東光展
2	オーバーの女	石本 秀雄	昭和35(1960)年	額(P80)145.2×97.3	油彩・カンヴァス	岡田章子 氏	第26回東光展
3	自画像	石本 秀雄	昭和4(1929)年	額(F8)45.4×37.8	油彩・カンヴァス	岡田章子 氏	
4	パリのモデル	石本 秀雄	昭和39(1964)年頃	額(P8)63.3×48.2×2.2	コンテ・紙(灰色)	岡田章子 氏	
5	スケッチブック	石本 秀雄	昭和3(1928)～6(1931)年頃	12.8×8.6×厚さ2.3	紙・鉛筆、一部水彩	岡田章子 氏	
6	自筆ノート	石本 秀雄	昭和24(1949)～	25.8×18.2	紙・鉛筆	岡田章子 氏	
7	手鏡の女	石本 秀雄	昭和38(1963)年	25.9×18.3	鉛筆・紙(印刷物裏面)	金子 剛 氏	
8	橙と桌上的静物	石本 秀雄	昭和38(1963)年	25.9×18.0	鉛筆・紙(印刷物裏面)	金子 剛 氏	
9	画室にて(参考出品)	石本 秀雄	昭和26(1951)年	162.8×130.6	油彩・カンヴァス		第17回東光展
第2章 佐賀商工会館							
10	鯉	立石 春美		51.5×57.3	絹本着色	財団法人 佐賀商工会館	
11	銀杏並木秋景	井手 誠一	昭和33(1958)年	37.8×45.6	油彩・カンヴァス	財団法人 佐賀商工会館	
12	麦秋	久富 邦夫		45.5×37.9	油彩・カンヴァス	財団法人 佐賀商工会館	
13	呼子(初秋)	久富 邦夫	昭和31(1956)年	24.3×33.3	油彩・カンヴァスボード	財団法人 佐賀商工会館	
14	燈火小閑	宮地 亨	昭和40(1965)年	145.5×97.0	油彩・カンヴァス	財団法人 佐賀商工会館	
15	壱岐	宮地 亨		24.2×33.0	油彩・カンヴァスボード(板か)	財団法人 佐賀商工会館	
16	あじさい	古瀬 虎龍		41.1×32.1	油彩・カンヴァス	財団法人 佐賀商工会館	
17	ユーカリ樹のある庭	若林 景光	昭和30(1955)年	38.1×45.6	油彩・カンヴァス	財団法人 佐賀商工会館	
18	川上の風景	若林 景光	昭和41(1966)年	53.0×45.6	油彩・カンヴァス	財団法人 佐賀商工会館	
19	商工会館	若林 景光	昭和32(1957)年	53.5×65.3	油彩・カンヴァス	財団法人 佐賀商工会館	
20	阿蘇早春	手島 貢		45.7×60.5	油彩・カンヴァス	財団法人 佐賀商工会館	
21	パラグアイの農家	小野 正人	昭和37(1962)年	33.6×45.7	油彩・カンヴァス	財団法人 佐賀商工会館	
22	金盞花	小野 正人	昭和35(1960)年	40.9×31.8	油彩・カンヴァス	財団法人 佐賀商工会館	
23	岩と波海原	上杉 耕次	1940(昭和15)	33.3×45.6	油彩・カンヴァス	財団法人 佐賀商工会館	
24	カンナの花	石本 秀雄		45.4×37.6	油彩・カンヴァス	財団法人 佐賀商工会館	
25	夏の果物	村岡 平蔵		37.8×45.6	油彩・カンヴァス	財団法人 佐賀商工会館	
26	西熱海	村岡 平蔵		31.9×40.9	油彩・カンヴァス	財団法人 佐賀商工会館	
27	新緑	村岡 平蔵	1963(昭和38)	53.0×45.7	油彩・カンヴァス	財団法人 佐賀商工会館	
28	雲仙	納富 進		72.7×91.1	油彩・カンヴァス	財団法人 佐賀商工会館	
29	夏の岬	納富 進		37.8×45.5	油彩・カンヴァス	財団法人 佐賀商工会館	
30	本栖高原	北島 兵一	1959(昭和34)	37.9×45.5	油彩・カンヴァス	財団法人 佐賀商工会館	
31	古湯雄渚	田中 宗一	1961(昭和36)	34.0×46.0	水彩・紙	財団法人 佐賀商工会館	
32	牛	下川 都一朗		31.8×40.4	油彩・カンヴァス	財団法人 佐賀商工会館	
第3章 藤田 隆治							
33	五ひき	藤田 隆治	昭和36(1961)年頃か	96.3×159.3	紙本着色(岩絵具・紙)	中牟田家	
	オリンピック(民族の祭典・美の祭典)	監督:レニ・リーフェンシュタール	1938年製作				コスミック出版DVD

展覧会名	知られざるメディカルイラストレーションの世界—描かれたからだの神秘
展覧会概要	体内の様子や病巣、治療の手順などのイラストは医学の発達に寄与してきたが、今日でも様々な医療シーンで、「人の手」を通すからこそ写真ではできない表現が可能な点などで真価が見直されている。本展は国内の美術館で初めての紹介展として、国内外で活躍するメディカルイラストレーター22名が参集した。アートと医学にまたがる領域をとりあげた、総合大学の美術館ならではの展示となった。
会期	平成27(2015)年7月17日(金)～8月23日(日)
開館日数	30日間
会場	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
主催	日本メディカルイラストレーション学会設立準備委員会 / 佐賀大学美術館
資料提供・協力	佐賀大学地域学歴史文化研究センター
展示構成	デザイン 102点 資料(「解体新書」複製本) 1点 サンプル(臓器モデル) 7点 計110点 出品作家：津田佳彦、鹿山育美、菅徳子、佐藤良孝、三浦正幸、川本満、今崎和弘、金井裕也、内田博子、レオン佐久間、末次文祥、磯和さやか、本庄和範、大桑あずさ、野村憲司、栗林樹奈、森皆ねじ子、よしみあさみ、横田ヒロミツ、河本萌、貝原拓磨、明石道昭
入館者数	4,390人
広報物	チラシ、ポスターなど
配布資料	チラシ、パンフレット
関連事業	講演会 第1回 日時：7月18日(土)14:00～ 講師：明石道昭氏 演題：「医療現場で見えた、命のかたちの美しさ」 第2回 日程：8月9日(日) 時間：10:00～11:00 講師：レオン佐久間氏 演題：「メディカルイラストレーションの現在・過去・未来」 時間：11:00～12:00 講師：佐藤良孝氏 演題：「メディカルイラストレーション、制作の実態」

<p>関連事業 2</p>	<p>ワークショップ 「からだの中を描いてみよう！」 第1回 日時：8月1日(土)14:00～ 講師：明石道昭氏</p> <p>第2回 日時：8月9日(日)14:00～ 講師：津田佳彦氏、明石道昭氏</p>
<p>内容</p>	<p>上映映像 「メディカルイラストレーター レオン佐久間氏へのインタビュー」(約16分) 「メディカルイラストの指導者 横田ヒロミツ氏へのインタビュー」(約16分) 「レオン佐久間氏によるイラストレーション実演」(約16分)</p>
<p>展示写真</p>	

展覧会名	村岡平蔵展—瞬間の美
展覧会概要	小城市に生まれ、日展、光風会展などで活躍した洋画家・村岡平蔵。本展では、平成24年に本学にご遺族から寄贈された人物がを中心に、若い時期の静物画、風景画を加えて公開した。展示室には、画家の言葉を作品と並べて随所に配し、女性美を追求した村岡の芸術に迫った。
会期	平成27(2015)年7月17日(金)～11月15日(日)
開館日数	101日間
会場	特別展示室
展示構成	<p>絵画7点 《ストーブと灰皿》1952年(第38回光風会展) 116.5x91.3 《夏の果物》 37.8x45.6 《多摩》1948年 116.5x91.3 《若いからだ》1975-1984年 50.2x73.2 《夏の日に》1982年(第14回日展) 145.5x97.7 《かがみ》1984年(第70回光風会展) 145.6x97.3 《西熱海》 31.9x40.9</p> <p>資料(雑記)1点 「アトリエ 特集：女の描き方」No.336 1957年 計8点</p>
入館者数	6,209名
広報物	チラシ
配布資料	チラシ、目録
内容	<p>担当学芸員によるギャラリートーク 日時：7月29日(水) 18:00～、11月7日(土) 14:00～</p>
展示写真	

展覧会名	鍋島緞通－綿/Menの織りなすハーモニー
展覧会概要	佐賀藩主の庇護のもと、藩士たちの手で織られた鍋島緞通。典型例である「蟹牡丹文」の作例の江戸から昭和までの変遷や、同じ木綿の敷物である赤穂緞通や堺緞通との比較、図案や素材の綿の紹介などにより鍋島緞通の特徴をわかりやすく示した。会期中、展示室では市内の織工房の協力で実際に緞通の製作が行われ、また、本展出品作の所蔵館学芸員や緞通研究者による講演、ワークショップなど様々な関係者からの協力のもと緞通の魅力を多彩に紹介することができた。
会期	平成27(2015)年8月28日(金)～9月27日(日)
開館日数	27日間
会場	ギャラリー 1、ギャラリー 2、スタジオ
協力	佐賀県立美術館 / 株式会社織ものがたり
資料提供	芭木もめん / 苗運寺 / 佐賀県医療センター好生館
展示構成	鍋島緞通16件19枚 堺緞通2件3枚 赤穂緞通2件4枚 鍋島緞通図案集1点 鍋島緞通折り機1点 計22件(内 緞通20件26枚)
入館者数	2,866人
広報物	チラシ、ポスター
配布資料	チラシ、目録つきワークシート
関連事業	講演会 日時：8月29日(土) 14:00～ 講師：上田(宮原)香苗氏 (佐賀県立博物館・美術館/佐賀大学美術館 元学芸員) 演題：「緞通の由緒と魅力－25年の調査成果から」 日時：9月5日(土) 14:00～ 講師：川副麻理子氏(佐賀県立博物館・美術館学芸員) 演題：「佐賀の地理と歴史から読み解く鍋島緞通」
関連事業2	ワークショップ 緞通ワークショップ よりより体験！ 参加人数 34名 日時：9月19日(土) 13:00～ 講師：木下真氏(織ものがたり)

関連事業3

担当学芸員によるギャラリートーク

日時：9月6日、13日、20日、27日（日）いずれも14：00～





日時：9月2日、16日（水）いずれも18：00～

展示写真



出品リスト

	作品名	規格等	法量	時代	素材	所蔵先
1	鍋島緞通 蟹牡丹文 緑二重雷文	一畳物片房 1枚	171.7x88.7	江戸～明治 前期	木綿 手織り	佐賀県立美術館
2	鍋島緞通 蟹牡丹文 緑二重雷文	一畳物片房 1枚	193x92.2	明治前～中 期	木綿 手織り	佐賀県立美術館
3	鍋島緞通 蟹牡丹文 緑二重雷文	一畳物片房、 飾耳糸 2枚	193.5x91.6 /187x90.8	明治中～後 期	木綿 手織り	佐賀県立美術館
4	鍋島緞通 蟹牡丹文 緑二重雷文	一畳物片房 1枚	188x92	明治後期～ 大正	木綿 手織り	佐賀県立美術館
5	鍋島緞通 蟹牡丹唐草文 緑二重雷文	一畳物片房 1枚	178.5x95.8	大正時代	木綿 手織り	佐賀県立美術館
6	鍋島緞通 蟹牡丹雲形文 緑卍繁文	三畳半物両房 1枚	246x241	昭和12-13	木綿 手織り	佐賀県立美術館
7	鍋島緞通 蟹牡丹文 (有) 吉島敷物製作	一畳物片房 1枚	185x96	1960年代	木綿 手織り	佐賀県立美術館
8	赤穂緞通 蟹牡丹文 緑二重雷文	一畳物房なし 2枚	185.3x91.8 /184x92.4	昭和前期	木綿 手織り	佐賀県立美術館
9	堺緞通 蔓蟹牡丹文	一畳物房なし 2枚	186.5x87.3 /186.8x91.0	昭和前期	木綿 手織り	佐賀県立美術館
10	鍋島緞通 花唐草花文 緑二重雷文	二畳物片房 2枚	357.1x91.2 /359.6x91.6	明治前期	木綿 手織り	佐賀県立美術館
11	鍋島緞通 兜牡丹文 緑二重雷文	一畳物片房 1枚	181.9x92.6	明治前期	木綿 手織り	佐賀県立美術館
12	鍋島緞通 花杏葉文 緑二重雷文	二畳物片房 2枚中1枚	364x91	明治中～後 期	木綿 手織り	佐賀県立美術館
13	鍋島緞通 芍薬に唐花文 緑二重雷文	一畳物片房 1枚	190.5x93.5	明治中～後 期	木綿 手織り	佐賀県立美術館
14	鍋島緞通 蟹牡丹文 緑七宝繁小雷文	一畳物片房 1枚	185.0x92.5	明治後～大 正	木綿 手織り	佐賀県立美術館
15	鍋島緞通 蔓牡丹唐草文 緑卍繁文	一畳物房カッ ト 1枚	186.7x94	大正時代	木綿 手織り	佐賀県立美術館
16	鍋島緞通 亀甲に蝶花文 緑雷文にねじり文	一畳物片房 1枚	179.5x93.5	大正時代	木綿 手織り	佐賀県立美術館
17	鍋島緞通 蝶に七宝樹文 緑卍繁文	一畳物片房 1枚	181.8x95.7	大正時代	木綿 手織り	佐賀県立美術館
18	赤穂緞通 市松に菊十字文	一畳物房なし 2枚	183.8x89.0 /190.3x89.6	昭和前期	木綿 手織り	佐賀県立美術館
19	堺緞通 市松に菊十字文 緑花菱繁文	一畳物房なし 1枚	188.0x92.0 /189.5x91.5	昭和前期	木綿 手織り	佐賀県立美術館
20	鍋島緞通 図案集 (佐賀・厚生舎)	マット装 畳 紙	36.5x21.5 etc.	明治中期～ 大正	木綿 手織り	佐賀県立美術館
21	鍋島緞通 「鍋島緞通」字 文(田中洋子氏による)		187x95.2	平成 5(1993)	木綿 手織り	佐賀県立美術館
22	機 (はた) 実物					株式会社織もの がたり
	和綿・洋綿の実物 綿繰り機等道具					菖木もめん
	写真パネル：鍋島緞通碑拓 本			明治17 (1884) 6月		佐賀・苗運寺
	写真パネル：種痘の図	秀島成忠・筆		昭和3 (1928)		佐賀県医療セン ター好生館

展覧会名	佐賀大学 公開講座「アートと女性の関係」	
展覧会概要	文化教育学部複数の研究室が分野をまたいで行ってきた公開講座を共催。初回は吉住磨子教授（美術史）、2回目は宮地歌織特任助教（文化人類学）、最終回は後藤正英准教授（倫理学）が「アートと女性の関係」というテーマで講座を開いた。	
会期	平成27(2015)年11月1日(日)、14日(土)、21日(土)	
開館日数	3日間	
会場	佐賀大学美術館 スタジオ ほか	
主催・協力・後援	主 催：佐賀大学文化教育学部（欧米文化研究室・西洋美術史研究室） 共 催：佐賀大学美術館、佐賀大学男女共同参画推進室	
展示構成	<p>●第1回 ローマの路地裏にて一周縁者たちの美術史ー 講師：吉住 磨子 教授(文化教育学部教授 佐賀大学男女共同参画推進室室長) 日時：11月1日(日)14:00～15:30 会場：佐賀大学美術館 スタジオ</p> <p>●第2回 ケニアの民芸品『ソープ・ストーン』をめぐる女性たちの生活 講師：宮地 歌織 (佐賀大学男女共同参画推進室特任助教) 日時：11月14日(土)14:00～15:30 会 場：佐賀大学文化教育学部4号館 2階401教室</p> <p>●第3回 ドイツロマン主義に見る恋愛と芸術 講師：後藤 正英 准教授(佐賀大学文化教育学部准教授) 日時：11月21日(土)14:00～15:30 会 場：佐賀大学美術館 スタジオ</p>	
入館者数	第1回：38人、第2回：21人、第3回：33人	
広報物	チラシ、ポスター	
配布資料	各会レジュメ	
展示写真		
		
		

展覧会名	市場直次郎コレクションより 花鳥風月に遊ぶ～近世の絵師と歌人～		
展覧会概要	佐賀大学附属図書館の所蔵する市場直次郎コレクションは日本及び中国文人の書画類約1230点、和書類約670冊を誇る。本展ではその中から与謝蕪村や狩野派・円山派等の扇面、伊藤若冲や谷文晁の掛軸、与謝野晶子の色紙など、花鳥風月を題材とした31点を展示し、近世の絵師と歌人の世界を紹介した。		
会期	平成27(2015)年11月25日(水)～平成28(2016)年3月13日(日)		
開館日数	87日間		
会場	特別展示室		
展示構成	扇面17点 掛軸3点 色紙5点 めくり2点 額装2点 典籍2点 計31点		
入館者数	4,226名		
広報物	チラシ、ポスター		
配布資料	チラシ、目録		
関連事業	担当学芸員によるギャラリートーク 日時：平成27年12月12日(土)、平成28年2月13日(土) いずれも14:00～		
展示写真			
			

出品リスト

No.	作家	作品名	制作年	素材・形状	サイズ
1	与謝蕪村	水辺樹林図	安永8年(1779)	紙本墨画・扇面	天地 19.5 上弦 27.2 下弦 16.7
2	与謝蕪村	水辺樹林図	江戸時代中期	紙本墨書	縦 15.4 横 14.4
3	紀梅亭	鹿図	江戸時代中期～後期	紙本墨画淡彩・扇面	天地 17.9 上弦 45.5 下弦 15.7
4	長沢蘆雪 (長沢芦雪)	澆墨松島図	江戸時代中期	紙本墨画・扇面	天地 17.6 上弦 50.6 下弦 21.9
5	山口素絢	菊図	江戸時代中期～後期	紙本淡彩・扇面	天地 15.3 上弦 43.1 下弦 21.4
6	池 大雅	秋色晴山図	江戸時代中期	紙本墨書	縦 19.7 横 26.8
7	池 大雅	大雅堂画譜 天	享和3年序刊 1803		縦 18.0 横 12.0
8	池 大雅	大雅堂画譜 地	享和3年序刊 1803		縦 18.0 横 12.0
9	池玉蘭	墨梅図	江戸時代中期	紙本墨画・扇面	天地 17.1 上弦 43.2 下弦 19.5
10	円山応震	花卉図	江戸時代後期	紙本着色・扇面	天地 19.1 上弦 51.0 下弦 20.0
11	大西椿年	鶴図	江戸時代後期	紙本墨画・扇面	天地 17.2 上弦 44.4 下弦 20.2
12	大岡雲峰	葡萄図	江戸時代後期 ※弘化2年(1845)	紙本墨画淡彩・扇面	天地 14.5 上弦 47.6 下弦 24.2
13	高久靄厓	墨竹図	江戸時代後期	紙本墨画・扇面	天地 15.7 上弦 50.6 下弦 24.8
14	酒井道一	山水図	明治時代以降	紙本墨画・扇面	天地 13.4 上弦 44.1 下弦 22.0
15	住吉派	貴人吹奏図		紙本着色・扇面	天地 18.2 上弦 50.0 下弦 20.6
16	狩野永納	鉄線図	江戸時代初期	紙本着色・扇面	天地 18.0 上弦 51.4 下弦 23.5
17	狩野周信	水仙図	江戸時代中期	紙本淡彩・扇面	天地 18.2 上弦 28.8 下弦 21.7
18	狩野永岳	馬図	江戸時代後期	紙本墨画・扇面	天地 17.7 上弦 49.2 下弦 22.3
19	英一蝶	大石内蔵助行楽の図	江戸時代初期～中期	紙本 木版手彩色・扇面	天地 13.0 上弦 43.4 下弦 19.2
20	土佐光貞	亀図	江戸時代中期～後期	紙本墨画淡彩・扇面	天地 18.2 上弦 49.8 下弦 20.1
21	土佐光孚	牡丹図	江戸時代後期	紙本淡彩・扇面	天地 18.0 上弦 45.5 下弦 19.5
22	伊藤若冲	鯉魚図	江戸時代中期	紙本墨書	掛幅装縦 78.1横 28.7巾 47.0
23	谷文晁・松村景文	太湖石・椿図	江戸時代後期	紙本墨書	掛幅装縦 122.5横 55.3 巾 76.0
24	酒井抱一 亀田 鵬齋	墨竹図	江戸時代後期		掛幅装縦 33.6横 33.8巾 47.5(42.0)
25	谷文晁 翠雲女 大窪詩仏	蝶と梅	江戸時代後期	紙本墨画	額装縦 58.8横 25.7外寸縦72.0 横38.3
26	鈴木其一	芥子図	江戸時代後期	紙本着色・色紙	縦 23.5 横 18.9718
27	上田秋成	上田秋成祝歌 (※「無臈」祝歌)	※文化3年 1806	絹本朱色金泥若松模様・色紙	縦 14.7 横 14.7 額外寸 縦26.2 横24.2
28	折口信夫	和歌	明治時代以降	紙本墨書・色紙	縦 21.1 横 18.0
29	柳原白蓮	和歌	明治時代以降	紙本墨書・色紙	縦 27.2 横 24.3
30	与謝野晶子	和歌	明治時代以降	金地・色紙	縦 27.0 横 24.0
31	与謝野寛	和歌	明治時代以降	色紙	縦 27.2 横 24.1

展覧会名	音楽のカーリコーダーとヴァイオリンのミニ・コンサート
展覧会概要	音楽の持つ癒しの力をテーマに、展示室内でバロック音楽との演奏会を行った。 ヴァイオリニストが奏でるアマティの深い音色、様々な大きさのリコーダーによる透き通るような旋律のほか、「音楽の力」にまつわる体験談や楽器の形や歴史などについて語られるタベとなった。
会期	平成27(2015)年12月4日(金) 16:15～17:00
開館日数	45分間
会場	ギャラリー1、ギャラリー2
協力	麻の会
展示構成	【出演者】 太田光子 (リコーダー) 三上亮 (ヴァイオリン) 杉浦道子(チェンバロ ※今回はお話のみ) 【曲 目】 リコーダーとヴァイオリンのためのデュエット (G.P.h.テレマン) 「無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ」より (J.S.バッハ) 「笛の楽園」より (J van エイク) ほか
入館者数	45人
広報物	チラシ、ポスター
配布資料	プログラム
展示写真	 

(3) 企画申請事業展示記録

展覧会名	四季の写真・文集展	
展覧会概要	佐賀医科大学の元学長である山口雅也氏が長く雑誌に掲載してきた写真と文集を紹介。九州をはじめ、京都・奈良など各地で撮影された、四季のうつろいをとらえた風景写真、23作品が展示された。	
会期	平成27(2015)年4月10日(金)～4月23日(木)	
開館日数	12日間	
会場	小展示室	
主催	同展実行委員会	
展示写真		


展覧会名	小城鍋島文庫に見る小城鍋島藩と島原の乱	
展覧会概要	佐賀大学と旧小城町（現小城市）の交流協定に基づき、2004年から毎年行われている小城地域の歴史に関する企画展のプレイバック企画。本展では、2004年の展示を再構成し、江戸時代に起こった島原の乱における佐賀藩や小城藩の動きを紹介した。	
会期	平成27(2015)年5月13日(水)～5月31日(日)	
開館日数	17日間	
会場	小展示室	
主催	佐賀大学地域学歴史文化研究センター	
展示写真		

展覧会名	第6回 A DOMANI展
展覧会概要	本学で西洋画を専攻する学生によるグループ展。「芸術地域デザイン学部」への改組を控え区切りの回として、今回は教員、卒業生とともに油絵、アクリル、水彩絵具等様々な技法で描かれた作品が一堂に会することとなった。
会期	平成27(2015)年5月16日(土)～5月31日(日)
開館日数	14日間
会場	ギャラリー1、ギャラリー2
主催	佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程西洋画教室
展示写真	

展覧会名	第40回 佐賀県書作家協会展
展覧会概要	複数の団体が行動で開催する、佐賀県内最大の書道展。初めて佐賀県立博物館との同時開催で行われ、当館では県内の同協会の会員、準会員による198点が展示された。
会期	平成27(2015)年7月7日(火)～7月12日(日)
開館日数	6日間
会場	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室
主催	佐賀県書作家協会／佐賀県立美術館
展示写真	

展覧会名	佐賀錦 New Generations 展
展覧会概要	学内プロジェクト研究所として平成26年秋から開講した「佐賀錦講座」を受講する学生らが制作したバッグや眼鏡ケース、アクセサリ、漆芸教室とのコラボ作品などを紹介した。
会期	平成27(2014)年10月7日(水)～10月18日(日)
開館日数	11日間
会場	小展示室
主催	佐賀大学佐賀錦研究所
関連事業	ギャラリートーク 日時：10月14日(水) 16:10～17:00 講師：日本工芸会正会員 小形由美子氏
展示写真	 

展覧会名	世界一周写真展
展覧会概要	世界を旅する2人の写真家、T&H Photographyによる写真展。アメリカ、ヨーロッパ、北欧、アジア諸国など世界35か国で撮影した約130点の作品を展示。会期中には旅と写真の魅力を語るトークイベントが、映像を交えて行われた。
会期	平成27(2015)年10月7日(水)～10月18日(日)
開館日数	11日間
会場	ギャラリー 1
主催	T&H Photography
展示写真	 


展覧会名	共に創る。佐賀大学デザイン思考研究所
展覧会概要	学内プロジェクト研究所により、人への共感や洞察を深め、社会課題の解決やイノベーションに結び付ける「デザイン思考」の基礎を学ぶワークショップや、学生グループの研究発表が行われた。
会期	平成27(2015)年10月9日(金)～11日(日)
開館日数	3日間
会場	ギャラリー2、スタジオ
主催	佐賀大学デザイン思考研究所
展示写真	

展覧会名	第31回佐賀県児童生徒・木工工作コンクール入選・入賞作品展
展覧会概要	佐賀県内の小中学生が創意工夫を凝らして作り上げた木工作品の展示会。小学校低学年の部、小学校高学年の部、中学生の部と、全部で3部門に応募された約800点の中から、入選・入賞を果たしたものを展示した。
会期	平成27(2015)年10月18日(日)～10月30日(金)
開館日数	11日間
会場	1階スタジオ
主催	佐賀県木材青壮年会
展示写真	


展覧会名	平成27年度JA共済小・中学生第51回書道・第41回交通安全ポスターコンクール 入賞作品展
展覧会概要	JA共済が文化支援事業として毎年実施している小・中学生を対象とした全国規模のコンクールの入賞作品展。当館では、入賞・入選した県内の子供たちの書道、ポスターが展示された。
会期	平成27(2015)年10月23日(金)～11月3日(火・祝)
開館日数	10日間
会場	ギャラリー1、ギャラリー2
主催	農業協同組合、全国共済農業協同組合連合会佐賀県本部
展示写真	

展覧会名	はちみつ展
展覧会概要	佐賀の高校生と、東日本大震災を体験した東北の高校生との「交流」をテーマに企画された展覧会。最終日には、実際に東北へ訪問した時の報告やグループディスカッションが行われた。
会期	平成27(2015)年10月24日(土)～11月1日(日)
開館日数	8日間
会場	小展示室
主催	はちみつ展実行委員会
展示写真	

展覧会名	第57回総合展
展覧会概要	美術・工芸課程の3年生を中心に運営される、伝統ある学生による総合美術展。大学美術館での開催は、今回が3回目。専攻の枠を越えた様々な作品が館内に並び、学生と教員による講評会も一般に公開された。大学祭の2日間は、美術館前で工芸品の出店もを行った。
会期	平成27(2015)年11月6日(金)～11月15日(日)
開館日数	9日間
会場	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室
主催	佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程 第57回総合展実行委員会
展示写真	

展覧会名	第4回佐賀大学コンテンツデザインコンテスト
展覧会概要	映像や静止画、アプリケーションなどのコンテストの入選作品の展示と、その中から優秀作品を決める公開審査、授賞式などが行われた。作品の制作者によるプレゼンテーションや、多彩なゲストによるトークイベントが行われた。
会期	平成27(2015)年11月25日(水)～29日(日)
開館日数	5日間
会場	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室
主催・協力・後援	<p>主 催：国立大学法人佐賀大学、佐賀大学地域環境コンテンツデザイン研究所</p> <p>共 催：C-revo in Saga、6者協定／佐賀県・佐賀市長会・佐賀県町村会・佐賀県商工会議所連合会・佐賀県商工会連合会・佐賀大学</p> <p>後 援：佐賀新聞社、読売新聞西部本社、朝日新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、NHK佐賀放送局、サガテレビ、エフエム佐賀、NBCラジオ佐賀</p>
展示写真	

展覧会名	第6回璞友会展
展覧会概要	佐賀県内で水墨画や書を学んでいる「璞友会」が定期的に行っている展覧会で、指導者を含めた約30人による、68点の書作、水墨画が展示された。
会期	平成27(2015)年12月8日(火)～13日(日)
開館日数	6日間
会場	ギャラリー1、ギャラリー2
主催	璞友会
展示写真	

展覧会名	つくりウム～アートでうみだす水族館～
展覧会概要	展示会場を巨大水槽に見立て、塩化ビニールに来館者が魚の絵などを描き壁に貼ってゆく体験型展示。週末には本学学生が滞在し、来館した子供たちと一緒にワークショップを行った。
会期	平成27(2015)年12月11日(金)～20日(日)
開館日数	9日間
会場	スタジオ
主催	佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程 西洋画教室
展示写真	

展覧会名	佐賀大学 ひと・もの作り肥前陶磁研究所 研究報告展
展覧会概要	学内プロジェクト研究所、肥前陶磁研究所のこれまでの成果発表として、唐津焼の作家38名による約140点の作品が展示された。来館者は床に敷かれた段ボールの上で、実際に作品を手にとりながら鑑賞した。
会期	平成28(2016)年1月6日(水)～1月11日(月・祝)
開館日数	6日間
会場	スタジオ
主催	佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程 窯芸教室ひと・もの作り肥前陶磁研究所
展示写真	

展覧会名	第31回佐賀県高等学校 美術教師作品展 併催: 第5回佐賀県高等学校美術科授業生徒作品展「これが高校美術だ！」
展覧会概要	高校美術における成果を広く一般に発表し、高校で美術を学ぶ意義を伝えることを目的として佐賀県の美術教員30名34点と、県内13校から生徒が制作した作品16点を発表した。
会期	平成28(2016)年1月19日(火)～24日(日)
開館日数	6日間
会場	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
主催	佐賀県高等学校教育研究会 芸術部会 美術部会
展示写真	

展覧会名	制作の現場—小木曾 誠とみらいの創造者たち
展覧会概要	本学で西洋画を教える教員が、自らの少年時代の絵から現在までなど「プロセス」を通して「制作の現場」を伝えようとした展覧会。展示室には学生の授業作品などを含め約200点が並び、会期中にはワークショップやギャラリートークも開催された。
会期	平成28(2016)年2月3日(水)～14日(日)
開館日数	11日間
会場	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
主催	佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程 西洋画教室
展示写真	

展覧会名	第十七回卒業書作展
展覧会概要	例年この時期に開催される、本学で書道を学ぶ学生による卒業書作展。卒業生3名の作品を中心に、本年は指導してきた教員や在校生の作品など19点が、美術館2階のスペースに展示された。
会期	平成28(2016)年2月9日(火)～14日(日)
開館日数	6日間
会場	小展示室
主催	佐賀大学文化教育学部学校教育課程 教科教育専修国語（書写）教育分野
展示写真	

展覧会名	第60回佐賀大学文化教育学部美術・工芸 卒業制作展 第22回 教育学研究科美術 修了制作展
展覧会概要	美術・工芸課程の卒業生、大学院教育学研究科の修了生による卒業・修了制作展。卒制展は今年で60回目となる。大学生活の集大成となる41名、約60点の作品を、美術館全体に展示した。
会期	平成28(2016)年2月19日(金)～2月28日(日)
開館日数	9日間
会場	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室
主催	佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程、佐賀大学大学院教育学研究科 教科教育専攻美術教育専修
展示写真	

展覧会名	佐賀大学大学院都市工学専攻・理工学部都市工学科 修士制作・卒業制作展
展覧会概要	佐賀大学理工学部都市工学科で学んだ学部4年生と大学院2年生の集大成である卒業制作・修士制作展。社会に潜む問題を提起し、新たな建築を提案した。5回目となる本年度は卒業制作13作品と修士制作2作品を展示した。
会期	平成28(2016)年3月9日(水)～3月13日(日)
開館日数	5日間
会場	スタジオ
主催	佐賀大学大学院工学系研究科 都市工学専攻、佐賀大学理工学部 都市工学科
展示写真	

展覧会名	佐賀大学デジタル表現技術者養成プログラム 第6期生修了作品展「电脑芸術展」
展覧会概要	佐賀大学で「デジタル表現技術者養成プログラム」を受講した学生による修了作品展。アニメーションやドキュメンタリー、プロジェクションマッピングなど、多彩な作品が勢ぞろいした。
会期	平成28(2016)年3月10日(木)～3月13日(日)
開館日数	4日間
会場	ギャラリー1、ギャラリー2、小展示室
主催	佐賀大学 e-ラーニングスタジオ
展示写真	

(4) プロムナード利用記録


展覧会名	佐賀大学アカペラサークル「Score!! (スコア)」によるアカペラライブ
事業概要	学生サークルが昼休みに新入生勧誘のためのミニライブを3日間行った。
日時	平成27(2015)年4月15日(水)~17日(金) 12:00~12:30頃
開館日数	3日間
主催	佐賀大学アカペラサークル「Score!! (スコア)」
展示写真	



展覧会名	佐賀大学管弦楽団によるプロムナード・ミニコンサート
展覧会概要	4月26日の第38回スプリングコンサートに向けてのプレ・コンサート。団員により、ラデッキー行進曲、ホールニューワールド、イェスタデイ・ワンス・モアなどが演奏された。
日時	平成27(2015)年4月23日(木) 12:20~12:50
主催	佐賀大学管弦楽団




展覧会名	ドイツを代表するデザイナー ステファン・ディーツ講演会
展覧会概要	2016年の有田焼創業400年を前に行われた講演会。講師にドイツの代表的なプロダクトデザイナー、ステファン・ディーツ、ファシリテーターに佐賀県有田焼創業400事業「2016/project」クリエイティブディレクターを務める柳原照弘を招き、セッション形式で、制作時の思考プロセスや仕事に対する姿勢が語られた。
日時	平成27(2015)年10月25日(日) 14:00~16:00
主催・協力・後援	主催：佐賀県有田焼創業400事業実行委員会 共催：佐賀大学文化教育学部
展示写真	

(2) 実習・研修

〔実習〕

実習・研修名	キュレーター 1 日体験
内容	翌年に控えた芸術地域デザイン学部の開設に向けて、高校生を対象に学芸員の仕事を体験するイベントが行われ、美術館でも参加者を受け入れた。当日はバックヤードを案内後、学芸員の仕事やその意義について説明し、質問に答えた。
期間	平成27(2015)年8月11日(火)、29日(土)
主催	芸術地域デザイン学部設置準備室
参加者	20名、6名
写真	 

実習・研修名	監視・受付実習
内容	学芸員資格取得希望者による博物館実習の学内実習を受け入れた。1、2年生の実習生が、当館主催の「新収蔵品展」「知られざるメディカルイラストレーションの世界」「村岡平蔵展」「鍋島段通展」において、1人7時間を監視及び受付業務にあたった。実習生は毎時間、担当時間中に起こったこと、気づいた事などをレポートで提出し、美術館職員がそれにコメントを返す形で質問に答えた。
期間	平成27(2015)年6月9日(火)～9月13日(日) 説明会：5月10日(日)
参加者	34名
写真	 

実習・研修名	照明実習	
内容	学内実習を受けている2年生の中から、希望者に対して照度に関する実習を行った。学芸員から照明の意味や作品保存の観点からの推奨照度などについての説明を行い、その後グループに分かれて館内各場所の照度を計測し、記録した。後半はグループごとに用意された作品を用い、2階小展示室で実際にライティングの作業を体験した。	
期間	平成27(2015)年9月11日(金)10:00~12:00	
参加者	5名	
写真		
写真		

〔職員の館外調査研究・研修等〕

佐々木奈美子

日時：平成27年6月6日

場所：東京家政学院大学

目的：日本ミュージアム・マネジメント学会
第20回記念大会「多様化する社会とミュージアム—組織のマネージメント」発表

大坪由季

日時：平成27年7月20日~24日

場所：国立国際美術館

目的：平成27年度独立行政法人国立美術館
キュレーター研修

佐々木奈美子

日時：平成27年11月22日

場所：小郡市文化会館

目的：野田宇太郎文学資料館特別企画展
「野田宇太郎の美術散歩」記念講演会講師

大坪由季

日時：平成27年12月12日

場所：九州産業大学

目的：平成27年度博物館実習報告会

(6) 刊行物

〔刊行物〕

「佐賀大学美術館 平成 26 年度年報/紀要」

《概要》年報+紀要

《仕様》A4 版 64 ページ 4 色刷

《発行部数》500 部

《発行日》平成 27 年 3 月 25 日



(7) 広報

〔掲載紙・テレビ・ラジオ〕

※平成 27 年度は総数で新聞等 130 件、TV・ラジオ 31 件が掲載・放送された。
本稿では館主催事業についての報道のみ抜粋して紹介。

- ・ 展覧会情報 染めの系譜 (3月20日、3月28日、4月28日、4月30日 佐賀新聞)
- ・ 展覧会情報 バンカラ時代の佐賀大学 (3月20日、5月29日 佐賀新聞)
- ・ 三者三様 深遠な世界 (3月27日 佐賀新聞)
- ・ 記者日記 80歳を超えて (3月28日 佐賀新聞)
- ・ 佐賀のひと バンカラ時代 思いはせて (3月20日 西日本新聞)
- ・ 染色教室 指導3人の作品展 (4月3日 読売新聞)
- ・ ニュース「歴代教授3人の染色作品展」 (4月4日 NHK)
- ・ バンカラな服 佐賀大の心意気 前身4校の資料展 (4月6日 朝日新聞)
- ・ ニュース「バンカラ時代の佐賀大学」 (4月10日 NHK、4月19日 NHK)
- ・ 往時の学生の姿伝える バンカラ時代の佐賀大学展 (4月21日 佐賀新聞)
- ・ ニュース「バンカラ時代の佐賀大学」 (5月4日 サガテレビ)
- ・ 染めの系譜 (2015年5月中旬 ぶんぶんテレビ)
- ・ バンカラ時代の佐賀大学 (5月中旬 ぶんぶんテレビ)
- ・ ニュース「新収蔵品展—受け継ぐ絵画」 (6月5日 NHK)
- ・ ニュース「新収蔵品展—受け継ぐ絵画」 (6月13日 サガテレビ)
- ・ 個性きらめく佐賀ゆかりの17人 人物、静物、風景…多彩に (6月23日 佐賀新聞)
- ・ 新収蔵品展—受け継ぐ絵画 (6月28日 佐賀新聞)
- ・ 展覧会情報 知られざるメディカルイラストレーションの世界 (6月30日、7月17日、8月22日 佐賀新聞)
- ・ ニュース「小城市出身の村岡平蔵展」 (7月17日 NHK)
- ・ 人体の神秘に肉薄 佐賀大学美術館でメディカルイラストレーション展 (7月28日 佐賀新聞)
- ・ ニュース「体の構造“イラスト”で国内初 佐賀市で展示会」 (8月6日 サガテレビ)
- ・ 瞬間の美求めて 村岡平蔵展 (8月7日 佐賀新聞)
- ・ 佐賀大でメディカルイラストレーション展 (8月8日 朝日新聞)
- ・ ニュース「高校生が学芸員の仕事体験」 (8月11日 NHK)
- ・ 記者解説「メディカルイラストレーター 人体を簡素化して図解」 (8月13日 佐賀新聞)
- ・ 佐賀大学1日体験教室、キュレーターの仕事知って (8月14日 佐賀新聞)
- ・ 日本初メディカルイラスト展 佐賀大美術館で (8月20日九州医事新報)
- ・ タウンたうん：洋画家・村岡平蔵「瞬間の美」展 (8月28日 佐賀新聞)
- ・ 鍋島緞通 綿-Men-の織りなすハーモニー (8月28日 佐賀新聞)
- ・ 鍋島緞通展 (8月29日 西日本新聞)
- ・ ニュース「鍋島緞通展」 (8月30日 NHK)
- ・ 佐賀のひと 佐々木奈美子さん「鍋島緞通」奥深い魅力 (8月31日 西日本新聞)
- ・ ニュース「鍋島緞通」 (9月4日 サガテレビ)
- ・ 木綿と藩士が織りなす伝統美 佐賀大学美術館で鍋島緞通展 (9月8日 佐賀新聞)
- ・ タウンたうん：色鮮やかな鍋島緞通26点展示 (9月11日 毎日新聞)
- ・ 佐賀大学、新学部設置 佐賀の未来づくりに貢献を (10月1日 佐賀新聞)
- ・ 街なか通信 村岡平蔵展 (10月14日 ぶんぶんテレビ)
- ・ きらめく女性美追求 小城市出身 裸婦像の画家、村岡平蔵 (10月15日 西日本新聞)

- ・イベント情報 佐賀大学公開講座「アートと女性の関係」
(10月30日、11月12日 佐賀新聞)
- ・村岡平蔵一瞬間の美 (11月12日 西日本新聞)
- ・展覧会情報 花鳥風月に遊ぶ―近世の絵師と歌人
(11月26日、12月26日、12月29日、1月29日、2月26日、3月13日 佐賀新聞)
- ・展覧会情報 花鳥風月に遊ぶ―近世の絵師と歌人(12月10日、12月17日、1月14日、
1月21日、1月28日、2月4日、2月11日、2月18日 朝日新聞)
- ・まちかどカレンダー (11月29日 佐賀新聞)
- ・華麗で優雅 午後のバロックをあなたに (11月30日 佐賀新聞)
- ・文化アート 有名作家の貴重な作品展示 市場氏コレクション (12月3日 西日本新聞)
- ・佐賀大学美術館で「花鳥風月に遊ぶ」展 (12月11日 佐賀新聞)
- ・地域とともに発展し続ける佐賀大学―新学部開設による知(地)の拠点の強化に向けて
(1月18日 佐賀新聞)
- ・ニュース「花鳥風月に遊ぶ―近世の絵師と歌人―」 (2月9日 サガテレビ)
- ・ニュース「佐賀大学美術館 入館者10万人達成」
(2月19日 サガテレビ、2月20日 NHK)
- ・佐賀大学美術館 入館者10万人達成 (2月20日 佐賀新聞)
- ・佐賀大学美術館が入館者10万人突破 亀川さん夫妻に記念品 (2月22日 西日本新聞)
- ・佐賀大学美術館 入館者10万人に (2月22日 毎日新聞)
- ・展覧会情報 久富邦夫<東京>―太宰と出会う修業時代
(2月26日、3月21日、3月27日、3月29日 佐賀新聞)
- ・美術館・博物館巡り「花鳥風月に遊ぶ―近世の絵師と歌人」 (3月7日 西日本新聞)
- ・芸術地域デザイン学部開設記念展～芸術で地域を拓く・芸術で世界を拓く
(3月29日 佐賀新聞)

[掲載誌]

- ・ぶらぶら美術・博物館 プレミアムアートブック 2015-2016号「美術館情報」
- ・MOTEMOTE さが5月号 vol. 58「染めの系譜 染色教室三人展」
- ・福岡Walker 2015年10月号「鍋島緞通 綿/Menの織りなすハーモニー」
- ・OUR PRODUCTS 2015-2016納入事例集―博物館・美術館―2015年11月～「美術館情報」
- ・JMMA 日本ミュージアム・マネジメント学会 会報 通巻第76号 (vol. 20-3)
日本ミュージアム・マネジメント学会
- ・福岡Walker 2016年4月号「美術館情報」

(8) 見学団体・入館者数

〔見学団体一覧〕

※事前連絡もしくは申告にて把握できたもののみ。参加者数に引率者含む。

- ・「大学入門科目」受講者（4月15日 17名）
- ・「インターフェース科目」受講者（4月16日 8名）
- ・スリランカ国立ペラデニア大学（4月21日 11名）
- ・「芸術創造Ⅱ」受講者（4月22日 16名）
- ・「大学入門科目」受講者（4月25日 65名）
- ・医療法人 山のサナーレ・クリニック（5月19日 17名）
- ・「西洋画」受講者（5月22日 16名）
- ・福岡県立糸島高等学校2年生（6月18日 68名）
- ・福岡県立筑前高等学校（6月18日 55名）
- ・学校法人佐賀龍谷学園龍谷高等学校1年生（6月20日 80名）
- ・熊本県立熊本商業高等学校（6月23日 14名）
- ・佐賀県立金立特別支援学校中学部（6月26日 9名）
- ・「大学入門科目」受講者（6月26日 14名）
- ・「楷書法」受講者（7月8日 31名）
- ・学校法人川島学園福岡舞鶴高等学校（7月9日 73名）
- ・長崎県立大村高等学校（7月22日 56名）
- ・佐賀県ベンチャー交流ネットワーク（7月23日 13名）
- ・新採用職員研修（7月29日 11名）
- ・福岡県立早良高等学校1-2年生（7月29日 64名）
- ・多久市立中央中学校（7月31日 14名）
- ・上海交通大学（8月1日 12名）
- ・キュレーター一日体験教室 参加者（8月11日 20名）
- ・「博物館教育論」受講者（8月27日 14名）
- ・九州地区係長研修（9月9日 65名）
- ・特別養護老人ホーム シオンの園デイサービス水ヶ江（9月11日 10名）
- ・デイサービスセンター杏の樹（9月21日 13名）
- ・福岡県立古賀成館高等学校（9月29日 15名）
- ・佐賀県立白石高等学校PTA（10月1日 28名）
- ・佐賀大学理工学部同窓会（10月4日 17名）
- ・福岡県立武蔵台高等学校PTA（10月7日 76名）
- ・長崎県立長崎北高等学校2年生（10月7日 74名）
- ・福岡県立香椎高等学校PTA（10月8日 29名）
- ・福岡県立八女農業高等学校PTA（10月9日 21名）
- ・佐賀県立佐賀東高等学校PTA（10月15日 22名）
- ・佐賀県立佐賀商業高等学校2年生（10月21日 40名）
- ・福岡県立武蔵台高等学校2年生（10月22日 32名）
- ・千葉県立大多喜高等学校（10月22日 41名）
- ・久留米市立南筑高等学校2年生（10月23日 57名）
- ・福岡県立新宮高等学校1年生（10月27日 42名）
- ・インドネシア SMA LAB school CIBUBUR（10月28日 20名）
- ・福岡県立柏陵高等学校2年生（10月28日 39名）
- ・学校法人佐賀理容美容専門学校アイ・ビー ビューティカレッジ（11月10日 13名）

- ・唐津市 成和公民館 (11月11日 25名)
- ・NHK文化センター北九州教室「美術館めぐり」 (11月11日 24名)
- ・学校法人旭学園佐賀女子短期大学附属佐賀女子高等学校 (11月11日 43名)
- ・ホームカミングデー (11月14日 68名)
- ・佐賀市立城東中学校 (11月14日 17名)
- ・熊本県立八代高等学校2年生 (12月2日 74名)
- ・「レクリエーション概論」受講者 (12月15日 10名)
- ・インドネシア宗教省およびインドネシア商社「トリミトラ」社長 (12月18日 16名)
- ・佐賀市・久米島町中学生交流事業 参加者 (12月19日 46名)
- ・佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程学生 (1月7日 23名)
- ・有朋会佐賀市西部支部会 (1月17日 12名)
- ・韓国 江南大学デザイン学部 学生 (1月22日 18名)
- ・NPO 法人地球市民の会(上海大学・釜山大学) (1月29日 65名)
- ・学校法人旭学園佐賀女子短期大学附属佐賀女子高等学校 (2月10日 42名)
- ・白石町立六角小学校6年生 (2月23日 25名)
- ・芸術地域デザイン学部1年生Aクラス (3月12日 29名)

平成27年4月15日～平成28年3月12日

〔事業別入館者数〕

※数値に重複あり

展覧会	入場者数	会期	日数	主催	展示会場
染めの系譜 Jo-Ogawa-Tanaka 染色教室三人展	3945	3月20日-5月10日	46	佐賀大学美術館	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
パンカラ時代の佐賀大学-昔なつかしキャンパスライフ	2537	3月20日-5月31日	63	佐賀大学美術館	特別展示室 ※観覧者実数
四季の写真・文集展	1326	4月10日-4月23日	12	四季の写真・文集展実行委員会	小展示室
小城鍋島藩と島原の乱	1950	5月13日-5月31日	17	佐賀大学 地域学歴史文化研究センター	小展示室
第6回 A DOMANI		5月16日-5月31日	14	佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程 西洋画	ギャラリー1、ギャラリー2
新収蔵品展-受け継ぐ絵画	1743	6月5日-6月28日	21	佐賀大学美術館	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室
佐賀県書作家協会展	1260	7月7日-7月12日	6	佐賀県書作家協会、佐賀県立美術館	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室
知られざるメディカルイラストレーションの世界-描かれたからだの神秘	4390	7月17日-8月23日	30	日本メディカルイラストレーション学会設立準備委員会、佐賀大学美術館	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
村岡平蔵-瞬間の美	6209	7月17日-11月15日	101	佐賀大学美術館	特別展示室 ※観覧者実数
鍋島段通 綿-Men-の織りなすハーモニー	2866	8月28日-9月27日	27	佐賀大学美術館	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
世界一写真展	3365	10月7日-10月18日	11	T&H Photography	ギャラリー1
佐賀錦 new Generation		10月9日-10月11日	3	佐賀大学佐賀錦研究所	小展示室
Co-creation佐賀大学デザイン思考プログラム	3318	10月18日-10月31日	12	佐賀大学デザイン思考研究所	スタジオ
第31回佐賀県児童生徒・木工工作コンクール入選・入賞作品展		10月23日-11月3日	10	佐賀県内JA、JA共済連佐賀	ギャラリー1、ギャラリー2
平成27年度JA共済小・中学生第51回書道 第42回交通安全ポスターコンクール入賞作品展 展示会		10月24日-11月1日	8	はちみつ展実行委員会	小展示室
はちみつ展		11月1日、11月14日、11月21日	3	佐賀大学文化教育学部	スタジオほか ※参加者実数
佐賀大学 公開講座「アートと女性の関係」	92	11月1日、11月14日、11月21日	3	佐賀大学文化教育学部	スタジオほか ※参加者実数
佐賀大学文化教育学部 美術・工芸課程 第57回 総合展	2894	11月6日-11月15日	9	佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、中庭、小展示室
第4回佐賀大学コンテンツデザインコンテスト	1244	11月25日-11月29日	5	佐賀大学、佐賀大学地域環境コンテンツデザイン研究所	ギャラリー1、ギャラリー3、スタジオ、小展示室
市場直次郎コレクションより 花鳥風月に遊ぶ-近世の絵師と歌人	4226	11月25日-3月13日	87	佐賀大学美術館	特別展示室 ※観覧者実数
音楽のカーリコーターとヴァイオリンのミニコンサート	45	12月4日	1	佐賀大学美術館 麻の会	ギャラリー1、ギャラリー2 ※参加者実数
第6回僕友会展	1530	12月8日-12月13日	6	僕友会	ギャラリー1、ギャラリー2
つくりウム-アートでうみだす水族館		12月11日-12月20日	9	佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程 西洋画	スタジオ
佐賀大学 ひと・もの作り 肥前陶磁研究所 研究報告展	659	1月6日-1月11日	6	佐賀大学文化教育学部美術工芸講座 窯芸教室ひと・もの作り 肥前陶磁研究所	スタジオ
第31回佐賀県高等学校 美術教師作品展 第5回「これが高校美術だ！」生徒作品展	658	1月19日-1月24日	6	佐賀県高等学校教育委員会 研究会 芸術部会 美術部会	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
制作の現場-小木曾誠とみらいの創造者たち	2338	2月3日-2月14日	11	佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程 西洋画	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
第17回 卒業書作展		2月9日-2月14日	6	佐賀大学文化教育学部学校教育課程教科教育選集 国語(書写)分野	小展示室
文化教育学部美術・工芸課程 卒業制作展 教育学研究科美術 修了制作展	2732	2月19日-2月28日	9	佐賀大学文化教育学部、佐賀大学大学院教育学研究科	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室
工学系研究科都市工学専攻・理工学部都市工学科 修了制作・卒業制作展	1198	3月9日-3月13日	5	佐賀大学大学院工学系研究科都市工学専攻・佐賀大学理工学部都市工学科	スタジオ
佐賀大学デジタル表現者養成プログラム(第7期生) 修了作品展-電脳芸術展		3月10日-3月13日	4	佐賀大学 e-ラーニングスタジオ	ギャラリー1、ギャラリー2、小展示室

平成27年3月20日～平成28年3月13日

年度別入場者実績

※数値に重複なし

	総入館者数	うち有料入館者数	開館日数
平成25年度	27167	0	125
平成26年度	40780	2652	254
平成27年度	37965	0	278

(9) 作品管理・保管

〔平成27年度新収蔵作品〕

収蔵年	作家名	作家名_産地_E	作品名	作品名_E
2015	城 秀男	JO, Hideo	豊	Fertility
2015	城 秀男	JO, Hideo	妖異な円	Weird Circle
2015	小川 泰彦	OGAWA, Yasuhiko	不知火の有明	Misterious lights on the sea, Ariake
2015	村岡 平蔵	MURAOKA, Heizou	若いからだ	Young Body
2015	村岡 平蔵	MURAOKA, Heizou	多摩	Tama
2015	村岡 平蔵	MURAOKA, Heizou	かがみ	Mirror
2015	村岡 平蔵	MURAOKA, Heizou	ストーブと灰皿	Stove and Ashtray
2015	村岡 平蔵	MURAOKA, Heizou	夏の日に	On Summer Day
2015	岩永 京吉	IWANAGA, Kyokichi	裸婦	Nude
2015	瀧 一夫	TAKI, Kazuo	萌黄釉角壺	Square Vase with Light Yellowish Green Glaze
2015	瀧 一夫	TAKI, Kazuo	伊羅保壺	Warty Vase
2015	瀧 一夫	TAKI, Kazuo	緑釉壺	Vase with Green Glaze
2015	豊田 勝秋	TOYOTA, Katsuaki	鑄銅瓶(糸目)	Casting Copper Bottle(Itome)
2015	古賀 忠雄	KOGA, Tadao	男の顔	Face of the man
2015	古賀 忠雄	KOGA, Tadao	男の顔	Face of the man
2015	山本 民二	YAMAMOTO, Tamiji	暦年	Year after year
2015	山本 民二	YAMAMOTO, Tamiji	無題	Untitled
2015	安永 良徳	YASUNAGA, Yoshinori	人物	Person Figure
2015	深草 廣平	FUKAKUSA, Kouhei	入り江の教会(天草、崎津風景)	Church facine the Cove(Landscape of Sakitsu, Amakusa)
2015	深草 廣平	FUKAKUSA, Kouhei	婦人像	Woman
2015	海老原 喜之助	EBIHARA, Kinosuke	本を焼く人	Book Burning Man
2015	海老原 喜之助	EBIHARA, Kinosuke	蝶(空の蝶)	Butterfly
2015	海老原 喜之助	EBIHARA, Kinosuke	記念碑的像	Monumental Image
2015	海老原 喜之助	EBIHARA, Kinosuke	人物	Person
2015	海老原 喜之助	EBIHARA, Kinosuke	衣を与う	Give the Clothes
2015	石本 秀雄	ISHIMOTO, Hideo	画室にて	At Atelier
2015	岡田 三郎助	OKADA, Sabrousuke	若き娘の顔	Face of the young woman
2015	斉藤 与里	SAITO, Yori	婦人像	Woman
2015	辻 永	TSUJI, Hisashi	須磨初秋	Suma in early Autumn
2015	中西 利雄	NAKANISHI, Toshio	H嬢像	Portrait of Miss H.
2015	藤島 武二	FUJISHIMA, Takeji	台湾娘	Taiwan Girl

分類	制作年(和暦)	制作年(西暦)	寸法(H×W×D)	素材	出品歴	寄贈者
工芸(染色)	昭和42	1967	144×81	染色	第10回日展 特選	堀 直子氏
工芸(染色)	昭和49	1974	185×160	染色	改組第6回日展	堀 直子氏
工芸(染色)	昭和53	1978	170×140	染色	改組第10回日展	小川 泰彦氏
西洋画	昭和50年代	1975-1984	50.2×73.2	油彩・カンヴァス		事務局より管理替
西洋画	昭和23	1948	116.8×91.3	油彩・カンヴァス		事務局より管理替
西洋画	昭和59	1984	145.6×97.3	油彩・カンヴァス	第70回光風会展	事務局より管理替
西洋画	昭和27	1952	116.5×91.3	油彩・カンヴァス	第38回光風会展	事務局より管理替
西洋画	昭和57	1982	145.5×97.7	油彩・カンヴァス	第14回日展	事務局より管理替
日本画	昭和38	1963	136×90	紙本着色(岩絵具・紙)		文化教育学部より管理替
工芸(窯芸)	昭和42	1967	30×24×24	陶器		文化教育学部より管理替
工芸(窯芸)			37×25	陶器		文化教育学部より管理替
工芸(窯芸)			30×27×27	陶器		文化教育学部より管理替
工芸(金工)	昭和41	1966	32.7×24.3	鍍金	第9回日展	文化教育学部より管理替
彫刻	昭和22-23年頃	1947-1948年頃	75×35	ブロンズ		文化教育学部より管理替
彫刻			75×35	石膏		文化教育学部より管理替
彫刻			H116	石膏		文化教育学部より管理替
彫刻(レリーフ)	昭和54	1979	W40.0×D25.4×H46.2	樹脂		文化教育学部より管理替
彫刻			9.0×30.0	ブロンズ		文化教育学部より管理替
西洋画	昭和55	1980	130.5×162.5	油彩・カンヴァス		文化教育学部より管理替
西洋画	平成1	1989	162.0×130.5	油彩・カンヴァス		文化教育学部より管理替
版画(リトグラフ)	昭和31	1956	57.2×38.8(本紙64.1×45.4)	版画(リトグラフ・紙)		文化教育学部より管理替
版画(リトグラフ)	昭和31	1956	55.0×37.2(本紙64.1×45.4)	版画(リトグラフ・紙)		文化教育学部より管理替
版画(リトグラフ)	昭和31	1956	54.7×37.6(本紙64.0×45.2)	版画(リトグラフ・紙)		文化教育学部より管理替
素描			58.5×49.0	紙・ペン		文化教育学部より管理替
西洋画	昭和31	1956	80.0×64.8	油彩・カンヴァス	第2回現代美術展	文化教育学部より管理替
西洋画	昭和26	1951	162.8×130.6	油彩・カンヴァス	第17回東光会	文化教育学部より管理替
西洋画	大正02	1913	42.4×34.4	油彩・カンヴァス	第2回光風会展	文化教育学部より管理替
西洋画			90.5×64.5	油彩・カンヴァス		文化教育学部より管理替
西洋画			41.3×53.2	油彩・カンヴァス		文化教育学部より管理替
西洋画(水彩)	昭和18	1943	60.4×48.2	水彩・紙		文化教育学部より管理替
西洋画			40.9×31.5	油彩・カンヴァス		文化教育学部より管理替

〔作品修復〕

対 象 作 品：石本秀雄「トレド(午後のトレド)」
村岡平蔵「ストーブと灰皿(ストーブ)」

修復作業期間：平成 27 年 12 月 11 日(金)、平成 28 年 1 月 19 日(火)～23 日(土)
委 託 先：絵画修復 たけのした工房

作業内容

*作業前の状態

- ・画面の絵の具層は油分が失われて、接着力がなくなり、亀裂・剥離・層間剥離・剥落が全面に現れている。

*保存修復処置内容

- ・画面の絵の具層の亀裂・剥離・層間剥離・剥落箇所に膠水を数回注入し、固着。
- ・絵の具層の剥落箇所の充填、成形。
- ・表面、裏面の殺菌、防霉処置。
- ・側面部分の張り調整のための補強。

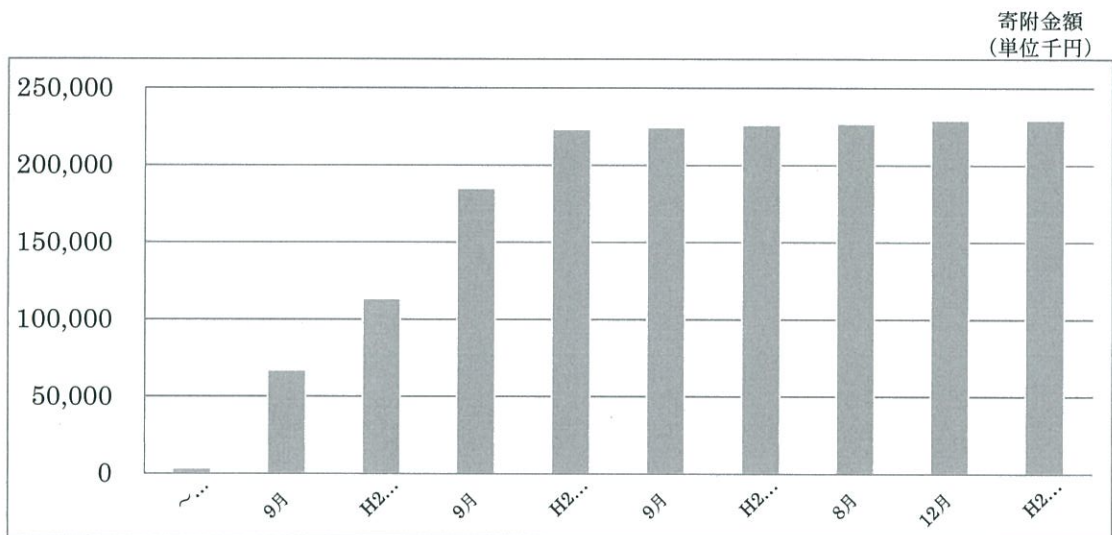
〔燻蒸〕

作 品：新収蔵作品・資料等 30 点
作 業 期 間：平成 28 年 3 月 1 日(火)～3 月 7 日(月)
場 所：2 階小展示室にテントを設営して実施
委 託 先：イカリ消毒株式会社

(10) 寄附状況

[美術館設置募金の経緯]

- 平成 23 年 6 月 美術館設置募金WG 設置
- 平成 24 年 4 月 美術館設置事業募金開始
- 平成 25 年 6 月 寄附者芳名帳を公開
- 平成 25 年 6 月 美術館規則の制定に伴い、美術館設置募金WGを解散
- 平成 25 年 9 月 美術館に高額寄附者銘板を設置
- 平成 25 年 10 月 美術館開館後も美術館設置事業募金を継続
- 平成 28 年 3 月 募金総額 229,344,276 円(平成 28 年 3 月 31 日現在)



Ⅱ 自己点検・評価

平成27年までの美術館運営の特徴について

当美術館は平成25年度10月に新制佐賀大学(旧佐賀大学と佐賀医科大学統合による)10周年を記念して開館した。国内で初の国立総合大学に附属する美術館であり、様々な展示事業を通じて大学の情報や教育・研究の成果を発信するとともに、地域のコミュニティセンターとして市民の方からも気軽に大学に足を運んでもらうきっかけとなることを目指している。

上記目的のために大学内の施設ながら常時一般公開し、また、市民団体にも活動の場を提供しながら年間を通して開館している。オープンから平成27年度末までの2年半に65本の事業を行い、約10万6千人の入館者があった。来館者の層は学生や教職員など大学関係者にとどまらず、市民の一般観覧、近隣小中高校からの団体見学など幅広い。所在地の人口に対する入館者の割合でみると他の大学博物館・美術館では高いところでも3%台だが、当館は平成27年度実績で16%強と利用率が非常に高くなっている。この数値は「開かれた大学」を象徴する施設としての存在意義を示すと同時に、芸術活動が日常にとけ込んでいる佐賀の文化風土に由来する当館の大きな特長である。

このような市民を含めた利用率の高さや、「特美」に由来する美術・工芸教育の伝統と質、芸術と他領域を結びつける総合大学ならではの学際的な試み、佐賀の文化・芸術の紹介等を、卒業生を含む周囲の関係者との緊密な協力関係のもとに実施できることは当館の強みとなっている。

以下、開館3年目を迎える平成27年度の主な活動について報告し、項を改めて今後の課題について検討したい。

1. 平成27年度の活動の概略

開館3年目を迎える平成27年度は、本学の美術・工芸の活動と歴史紹介を主軸に、地域の工芸を展覧した「鍋島緞通展」や他館で先例のない「メディカルイラストレーション」の紹介展から市民活動への支援まで29本の多彩な事業及びそれに付随する講演会、ギャラリートーク、ワークショップ等各種イベントを開催した。全29事業の内、主催事業が7本、学内外から企画申請を受けての事業が22本である。

また、展示やイベント以外では、前年度から開始した旧教員など関係者の作品収集、資料の保存管理、博物館実習生の受け入れ、県内外からの見学や視察及びメディアへの対応、寄附金の収受などを行った。

以上の取組みにより、平成27年度は年間で37,965人の入館者を迎えることができた。昨年度より数値は下げたが、依然として他の大学附属博物館・美術館と比較して多数の来館者を維持している。これは、休館日設定を月曜のみとしていることと、学外を含む企画申請が多く開催していることによる。

企画申請事業を主催する学外の団体に対しては本年から施設使用料を課したが、申請数・実施数とも昨年度から変動はなかった。結果として、小学生・中学生から大人まで幅広い市民の作品が大学美術館で展示され、COCを目指す大学運営に一定の貢献をしたと考える。

開館からの総入館者数は、芸術地域デザイン学部の開設を間近に控えた2月に10万人に達し、年度末時点では105,912人となった。

(1) 美術館主催事業

「大学の紹介・広報・研究成果の発表」「大学の所蔵品の調査・公開」「〈特美〉から現在までの本学の美術・工芸に関連する人と作品」「地域の文化伝統の解題・アーカイブ」「総合大学の美術館としての特色を生かした展示」等に焦点をあてる。

- ① 春の「染めの系譜」は本学で染色を教えた3人の教員の作品を展示した。「佐大の染色」の特徴と継承を示すと同時に、それぞれの個性を一望のもとに見渡す機会となった。
- ② 日本メディカルイラストレーション学会設立準備委員会との共催で7月から「知られざるメディカルイラストレーションの世界」展を行った。美術展で展示される機会がこれまでなかったことから国内外で活躍する医療イラストの第一人者の作品が集まり、総合大学の美術館らしい事業となった。
- ③ 8月からの「鍋島緞通」では県立美術館の所蔵品を借用して、江戸から昭和までの蟹牡丹文の一畳ものを並べて時代による変遷を追い、同じ木綿の敷物である赤穂、堺の緞通と比較展示するなど特色と魅力をわかりやすく伝える教育的展示を行った。会期中、市内の織工房が展示室内で実際に緞通製作を行うなど関係者からの様々な協力を得た。
- ④ 2階特別展示室で、卒業・入学式の時期に、昔の佐賀大学の様子を伝える「バンカラ時代の佐賀大学」を開催した。本学が旧制佐賀高校と複数の師範学校を母体としていること、当時の学内の様子、授業で使った道具、成績表など、同窓会菱の実会館に保管されている物品により紹介した。
- ⑤ 7月からは大学所蔵品を紹介する小企画「村岡平蔵一瞬間の美」を行った。開館前に寄贈されていた人物画に、風景、静物の小品を合わせて紹介した。
- ⑥ 11月からは、大学図書館に保管されている「市場コレクション」の日本及び中国文人の書画類1200点の中から花鳥風月をテーマとした扇面、軸など近世の絵画と、近代の文学者らによる色紙類を紹介した。若冲の掛軸や与謝野晶子の色紙など大学蔵品中の隠れた名品を発掘する機会となった。

(2) 企画申請事業

- ① 学内利用に関しては「佐大オール」(学内一斉メール)を通じて、教育研究の成果発表や授業の一環としての展示室利用について企画を受付けることを芸術系以外の教職員にも公平に周知している。

美術館という施設の性質上、やはり中軸となるのは美術・工芸の教員・学生らによる作品発表で、恒例の「総合展」第57回展や「卒業制作展」などで力作が並べられた。

昨年からの継続事業としては「第4回佐賀大学コンテンツデザインコンテスト」や各卒業制作展(書道、デジタル表現、建築)が開催された。

地域学歴史文化研究センターは小城市で行ってきた「小城鍋島文庫」に関連する展示を再構成して大学美術館で紹介するプレイバック展を行った。

平成27年度は各学内プロジェクト研究所の成果発表も相次いだ。佐賀錦研究所、思考デザイン研究所、唐津焼プロジェクト等である。また、美術・工芸の西洋画教室は教員を中心に「A DOMANI」「つくりウム」「制作の現場」と3つのタイプの異なる作品発表を行った。

- ② 学外からの企画申請の受け付けは、美術館ホームページ及びフェイスブックで周知した。継続事業としてはJ A主催の小・中学生ポスター・書道コンクール展のみで、他は全て新規事業であった。

男性二人組(内一人は卒業生)が世界を旅して撮影した「世界一周写真展」など社会人の作品発表が反響を呼んだほか、佐賀の高校生が東日本大震災の被災地の高校生と交流した様子を紹介する「はちみつ展」、県内の高校の美術教師と生徒による「これが高校美術だ！」など児童・生徒の作品が展示される機会が昨年より増えた。

学外からの事業で最も規模が大きかったのが7月に行われた「佐賀県書作家協会展」だった。複数の流派が合同で展示する県下で最も大きな書道展で、県立美術館と大学美術館で同時に一つの展覧会を開催する最初の機会となった。

以上のように市民の文化活動に発表の場所を提供することは来館者の裾野を広げ、市民が大学美術館及び大学に足を運ぶ一つのきっかけとなっている。

(3) 実習・研修事業

開館以来継続している、文化教育学部の博物館学芸員履修課程における「学内実習」の受入れを行った。3年目となる今年は、監視実習、受付対応実習に加え、館内での照度を実際に計測する照度実習を追加した。また、8月には、来年度に開設予定の芸術地域デザイン学部のためにプレイベントとして実施された「キュレーター一日研修」に参加した高校生たちに対し、美術館内の案内と仕事内容の説明を行った。

(4) 刊行物の発行

平成27年度は展覧会の図録、パンフレット等の作成はなかった。平成26年度の事業活動をまとめた「平成26年度佐賀大学美術館年報/紀要」を発行した。

(5) 掲載紙・テレビ取材等

平成27年度にメディアでの掲載・放映は、新聞等130紙、テレビ・ラジオ31件で取り上げられた。各事業については当館ホームページやフェイスブックなどで逐次情報を提供することで予算のかからない広報宣伝と事業の報告につとめている。台風など災害時に来館者に開館情報を伝える際にもウェブを用いることで対応した。

また例年通り、見学団体・視察等を随時受け入れた。大学見学のための高校生や父兄の団体見学が最も多いが、学内の授業の一部として美術館見学を組み込むケースも増えてきている。解説・案内等の依頼に対しては、現行の職員体制で可能な限り応じた。

(6) 資料収集・保存

平成26年度より寄贈作品の受け入れを開始し、今年度も引き続き、展覧会や学内の作品調査に基づき作品収集を行った。今年度は「染めの系譜展」に出品された城秀男、小川泰彦の屏風の寄贈を受け、また、岩永京吉、村岡平蔵、海老原喜之助の絵画、版画、豊田勝秋、瀧一夫らの工芸、古賀忠雄の彫刻などを学内の管理替えにより美術館の収蔵庫に保管することとした。

保管・管理にあたっている作品の中から、石本秀雄「トレド」、村岡平蔵「ストーブと灰皿」の2点については進行中の剥落部分、カビの除去などを行った他、新収蔵品を対象に燻蒸を行った。

2. 今後の課題等

大学美術館としての理念に基づく展示企画、作品収集・保存の状況、館運営などのバランスの中で年間スケジュールを構成してきた。開館から2年半が過ぎ、大学及び学生、そして地域社会に資するような調査・研究、教育普及活動について少しずつ積み重ねられている実感がある。一方で、今後も継続的に美術館を運営するためには、常に課題の所在を念頭に置きつつ多方面と問題を共有し、助言・協力を仰ぎつつ、実現できるところから順次取り組みを進めていく必要がある。

(1) 美術館の運営費等

開館以来、美術館の運営費の継続的な確保は最大の課題となっている。開館後も寄附募集は継続しているが、寄附件数・金額とも減少しており、このような状況下で運営費の確保が安定した美術館運営のために必要とされる。平成26年度からは施設使用団体から光熱水費の実費負担を求めて、平成27年度にはさらに学外の使用団体からの使用料の徴収を開始した。これにより年間50万円程度の貸付収入が実現したが、今後も自己収入策の検討、継続しての寄附獲得の努力、特に地域の企業等からの協力、外部資金の獲得などを検討していく必要がある。同時に、大学美術館ならではの事業の遂行により当館の意義を周知し理解を深めていくことで、寄附その他の地域からの協力を結びつくような実りある事業を行う努力を続け、また、そのための体制を作っていく必要がある。

(2) 美術館活動

所与の予算と人員の中で特色ある美術館活動を行っていくためには、取り組む内容や手法の工夫と、当館の強みを打ち出していく必要がある。他にはない当館の特徴は、特美以来の美術教育の伝統と、日本で唯一の国立総合大学附属の美術館としての存在感である。卒業生たちの地域での活躍や、文化的に層の厚い地元関係者からの協力も、一般の館では得られない点であろう。現状、正規学芸員1名と非常勤3名、再雇用職員1名というミニマムな人数で年間280日稼働し、年間3万人を越える入館者があるが、このような大学附属館は国内に類例がない。出勤シフトもぎりぎりだが、学内及び地域と協働することで人手、予算の少なさをカバーしながら調査研究を少しでも進め、今後も意義のある事業を遂行していきたい。

(3) 施設とセキュリティの課題

空調をはじめとする施設状況は開館3年目を迎えても安定していない。施設としての問題点は多々あるが、直面しているのは2階特別展示室の温湿度管理が難しいことと、排水用のピットポンプの不具合である。一気に解決することは難しいが、定期的な点検と日常からの注視により、必要に応じて補修、工事を依頼するなど対処を行っている。今年度、夏の「鍋島緞通展」を機に、1階東側のガラス面にロースクリーンを設けることにより遮光の問題が一部改善した。

(4) 学内の理解と関心

他の美術館・博物館など近隣他館、また、地元の美術関係者との協力関係、信頼関係は館の財産であり、今後も構築の努力を続けていく必要がある。さらに取り組むべきは、学内における連携であり、開館後2年半を経た今なお大学美術館への理解は部分的・現限定的なままである。美術館が全学的な施設であることを学内に浸透させるための知恵と工夫と機会、たとえば、理系の学部との展示事業などを企画していくなど、地道な努力が必要だと思われる。

平成27年度 一般運営経費事業報告書

(部局名) 美術館

(単位:円)

事業等名称	予算現額	執行額	差額	備考
消耗品費	3,690,000	887,787	2,802,213	
備品費	500,000	0	500,000	
印刷製本費	500,000	1,288,616	△ 788,616	年報紀要991千円、年間スケジュール65千円、チラシ類162千円外
図書費	100,000	25,406	74,594	
光熱水費				
電気料	3,300,000	2,327,775	972,225	H26年度3,052千円
上下水道料	600,000	421,363	178,637	H26年度495千円
旅費	400,000	109,450	290,550	
通信・運搬費	0	0	0	
電話料	400,000	18,750	381,250	
郵送料	200,000	45,627	154,373	
賃借料	0	0	0	
車両燃料費	100,000	3,301	96,699	
保守費	150,000	1,084,032	△ 934,032	昇降機641千円、空調設備363千円、特別高圧受変電設備49千円外
修繕費	500,000	907,200	△ 407,200	床下排水ポンプ556千円、中庭土間補修351千円
損害保険料	100,000	0	100,000	
会議費	0	0	0	
報酬・委託・手数料	0	0	0	
清掃業務委託費	0	0	0	
警備業務委託費	80,000	71,280	8,720	
複写機業務委託費	150,000	122,945	27,055	
福利厚生費	0	0	0	
広告宣伝費	100,000	32,260	67,740	
行事費	100,000	28,361	71,639	テープカット用ハサミ類
諸会費	30,000	0	30,000	
租税公課	0	0	0	
被服費	0	0	0	
交際費	0	0	0	
雑費	3,000,000	639,408	2,360,592	
非常勤職員給与等	0	0	0	
事務補佐員給与等	6,000,000	6,442,794	△ 442,794	事務補佐員3人5,848千円、監視員594千円
追加収入(一時使用料)	349,252	349,252	0	
予算振替	137,385	0	137,385	
文化教育学部へ移算(芸術地域デザイン学部開設記念展準備)	△ 1,000,000	0	△ 1,000,000	
法人本部へ予算返納	△ 3,101,273	0	△ 3,101,273	
小計	16,385,364	14,805,607	1,579,757	

部局内共通(管理)経費

佐賀大学美術館自己点検評価報告書(開館~平成 27 年度)外部評価

番号	評価項目	評価	評価についてのコメント
1	教育研究の支援と発信	<input checked="" type="checkbox"/> 十分に達成	できれば、毎年全各学部で特徴のある発表が行なわれると評価がより高くなると思われる。
2	社会貢献地域振興	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	県市町村にお願いして各特徴ある発表を願いますと学生の就職等に役立つのではないかと。
3	芸術振興	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	美術以外の芸術家にも発表の場を与えると学生も興味を持ち参加できるのではないかと。
4	大学運営に対する貢献	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	学生募集等にも役立つ計画することにより中・高生が佐賀大学に興味をもつて受験するのではないかと。
5	組織運営	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	一般の教職員等からも運営員の希望者を募ることにより美術館をより深く理解するのではないかと。
6	評価の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	評価項目の中に評価員の自由な意見の項目を別にでも設けてはいかがでしょうか。

平成 28 年 12 月 15 日

検証者所属 佐賀大学同窓会 有朋会

検証者氏名

宮尾正隆



佐賀大学美術館自己点検評価報告書（開館～平成 27 年度）外部評価

番号	評価項目	評 価	評価についてのコメント
1	教育研究の 支援と発信	<input checked="" type="checkbox"/> 十分に達成 <input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 要検討	九州に一つしかない特設美術科が果して来た成果を見せる 展覧会が出来て佐賀大学の歩みが分かった。 芸術分野にかぎらず，医学や地域の歴史などを取りあげ た展示は佐賀で初めて見られた。 過去，現在の美術科教師を取りあげた展示によって展示 によって十分に学生達にもアピール出来た。
2	社会貢献 地域振興	<input checked="" type="checkbox"/> 十分に達成 <input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 要検討	これまで大学とはあまり関係なかった一般の人々を美術 館によって学内に呼び込む機会となった。 子供から大人まで各種の展覧会等に多くの人々が入場す ることが出来て，佐賀大学の目だまとしての役割を果し たと思う。
3	芸術振興	<input type="checkbox"/> 十分に達成 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 要検討	美術館の開館からまだ2年半程で，十分には一般の人た ちには浸透していない感がある。 美術館がどのような使い方が出来るのか等，美術関係や 学校関係の人たちに十分に伝わっていないところがあ る。
4	大学運営に 対する貢献	<input type="checkbox"/> 十分に達成 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 要検討	まだ2年半程での取組であり，十分とは言えないが佐賀 大学の存在感を示すことが出来た。 佐賀大学のこれまでの取組の美術活動や正史を見る展示 がいくつか行われたが，いま少し地域の企業や行政にも 協力を求める必要があるのではと思った。
5	組織運営	<input type="checkbox"/> 十分に達成 <input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 要検討	展示場の少ない佐賀において各種展覧会のうけざらとし ての展示場として活動している。 年間を通じてほとんど休みなく活動している美術館とし ては学芸員のエネルギーがもっとほしい。 同じ予算であれば，学芸員さんは慣れた人に続けてほし い。
6	評価の妥当性	<input type="checkbox"/> 十分に達成 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 要検討	各種展覧会の評価等，熱心になされている。 展覧会の中で主な行事を取りあげて，欲をいえば会場で のギャラリートークや討論会などをもっと取り入れてほ しい。 一般の入場者の評価も聞いてみたい。

平成 28 年 12 月 15 日

検証者所属 東光会佐賀支部緑光会

検証者氏名 金子 剛 ㊞